

1 調査団の背景と目的

1-1 調査団派遣の経緯と目的

平成11年10月より UNTAET (United Nations Transitional Administration In East Timor : 国連東チモール暫定統治機構) の暫定統治下に入った東チモールにおいては、現在我が国を始めとする各ドナー国、国際機関及び NGO による独立/復興に向けた支援活動が展開されている。本年1月から派遣された我が国の経済協力調査団の報告においても、さまざまな分野における協力隊派遣が提言されているとともに、デメロ UNTAET 特別代表からも JICA ボランティアの派遣要請が書面にて提出された。今後、一般民衆の生活基盤の確立および生活改善を第一義に考え、一般住民への浸透力、支援の機動力さらに環境への適応力を持った青年海外協力隊員を派遣すれば、さらなる効果的な協力が可能となると考える。

暫定統治下での協力隊員の派遣については、国際機関が派遣取極の相手側主体となりうるかという外交的課題が残されているが、東チモール支援の緊急性を鑑み、当面は他の制度を利用した協力隊員の派遣を探るべきであると考え。また、外交的課題が解決された時点、もしくは近い将来、東チモールが正式に独立国になった時点には、スムーズに協力隊の派遣が実施できるよう具体的なニーズの発掘や派遣可能性の調査、現地の生活環境の調査を現時点で行うことも重要である。

1-2 調査項目

- (1) UNTAET の協力隊受入に関する方針・政策
 - ・ ボランティア事業に対する UNTAET の方針・政策の情報収集
 - ・ UNTAET からの派遣要請にある、農業、土木、教育、職業訓練、生活向上及び保健医療等の分野において、協力隊事業に合致するニーズ・可能性の調査
- (2) 派遣取り決め・締結等に関する情報収集
 - ・ 受入の支援体制の確認 (免責、免税措置等)
 - ・ E/N の締結の可能性及び方法の調査
- (3) 現地後方支援体制確立のために必要な諸策に関する調査
 - ・ 調整員派遣の環境整備
- (4) 安全確保対策
 - ・ 治安状況
 - ・ 通信手段
 - ・ 緊急避難ルート・手段
 - ・ 輸送手段等
 - ・ 派遣可能地域
- (5) 要請発掘
 - ・ 分野毎のニーズの調査
 - ・ 可能性のある配属先の調査
 - ・ 緊急に対応すべきものと将来的に通常の協力隊派遣スキームで対応すべきものを調査
- (6) 協力活動と生活のための環境に関する調査
 - ・ 隊員活動環境に関する調査 (言語、C/P、活動環境等)
 - ・ 隊員生活環境に関する調査 (衣、食、住、衛生、医療等)

- (7) 訓練すべき言語及び施設の調査
- (8) 他のボランティア活動調査

1-3 調査団の構成

- (1) 総括
三苫 英太郎 (青年海外協力隊事務局 海外第1課長)
- (2) 協力企画・土木
鳥羽 美智雄 (青年海外協力隊事務局 技術顧問)
- (3) 派遣計画・農業
津川 智明 (協力隊調整員経験者)
- (4) 業務調整・生活向上
堰免 直樹 (協力隊調整員経験者)
- (5) 教育・職業訓練
麻生 宣子 (インドネシア OG: 日本語教育)
- (6) 保健衛生
八田 早恵子 (インドネシア OG: 看護婦)

1-4 調査日程

別紙のとおり

調査日程

	月日	曜日	調査行程					鳥羽
			三苦	堰免	八田	津川	麻生	
1	4月6日	木	成田発(11:35)→シンガポール着(17:25) シンガポール発(22:35)→					
2	7日	金	ダーウィン着 ダーウィン発(17:00)→ディリ着(17:15) 高橋副代表表敬					
3	8日	土	JICA 事業所打合、調査方針協議(含高橋副代表) Liquica 地方視察					
4	9日	日	市内の現況調査					
5	10日	月	UNTAET 山本氏/JICA 農業調査団/UNTAET 表敬/JICA 開発調査団					
6	11日	火	UNTAET 農業部門/教育部門/UNTAET Doner Coordinator 訪問					
7	12日	水	事業所職員と打ち合わせ、ディリ県 Working Committee に出席					
8	13日	木	MANATOTU 県視察、外務省ディリ連絡事務所担当官と協議、UNTAET 保健部門と協議					
9	14日	金	CNRT 教育担当官と協議、ICRC 病院視察、UNTAET 教育関係者会議、日本人連絡会					
10	15日	土	Maubisse, Aileu を視察、JICA/高橋副代表に経過報告					
11	16日	日	生活環境調査					
12	17日	月	BAUCAU 県、LAUTEM 県 要請背景調査					
13	18日	火	"					東京発
14	19日	水	" / UNTEAT の担当者に中間報告					ディリ着
15	20日	木	情報収集/生活環境調査 / 高橋副代表に中間報告					
16	21日	金	ディリ発	情報収集/生活環境調査 江尻ディリ事業所長着任				
17	22日	土	東京着	NGO の活動調査/生活環境調査				
18	23日	日		報告書作成				
19	24日	月		ILO 職業訓練担当者と面談/高橋副代表、JICA 事務所へ報告/水供給プロジェクトと協議				
20	25日	火		JICA 農業専門家と協議 / UNTAET, Ms. Faith Harding を訪問				
21	26日	水		JICA インフラ調査団と協議 / LIQUICA 県、NGO(Peace Winds Japan)活動視察				
22	27日	木		AINARO 県視察、UNTAET 黒田氏と面談				
23	28日	金		BECORA 工業学校視察、GTZ 代表と面談、日本人連絡会、JICA 事務所へ報告				
24	29日	土		NGO と面談 / 高橋副代表に経過報告				
25	30日	日		河野外務大臣との懇談会に出席				
26	5月1日	月		MANATUTO 県、BAUCAU 県、LAUTEM 県の要請背景調査				
27	2日	火		"				
28	3日	水		"				
29	4日	木		"				
30	5日	金		UNTAET、JICA 事業所、政府連絡所へ報告および帰国挨拶				
31	6日	土		生活環境調査/資料整理				
32	7日	日		報告書作成				
33	8日	月		ディリ(12:45)→デンパサール(14:40)				
34	9日	火		デンパサール(21:45)発				
35	10日	水		東京(8:40)着				

1 - 5 調査団面談者リスト

1 . United Nations Transitional Administration in East Timor (UNTAET)

Mr. Akira Takahashi	Deputy Special Representative of the Secretary General (DSRSG)
Ms. Faith Harding	Director, Office of the DSRSG
Mr. Aiichiro Yamamoto	Senior Civil Affairs Officer, GPA(*)
Ms. Catherine Walker	Director, Donor Coordinator Unit, GPA
Mr. Tomofumi Nishinaga	Program Officer Donor Coordination Unit, GPA
Mr. Sergie Verniau	Head of Agriculture Unit, GPA
Ms. Bodil	Head of Education Unit, GPA
Mr. Jim Tulloch	Head of Health Unit, GPA
Mr. Yosh Azuma	Research and Census Unit, GPA
Ms. Yukiko Tahira	Civil Service Program Unit, GPA

*GPA: Governance and Public Administration

2 . District Office, UNTAET

BAUCAU District Office

Ms. Sarwar Sultana	District Administrator (D.A.)
Mr. Yusheng Yang	Deputy District Administrator
Mr. Loka Nath Dahal	Agriculture Officer
Mr. Omar Jallow	Education Officer
Mr. Moshaque Ahmed	Health and BAUCAU Sub-District Field Officer
Mr. Shaihou Njai	VEMASSE Sub-District Field Officer
Mr. Fredrick Ssail	Infrastructure and VENILALE Sub-District Officer
Ms. Christine Sewamjana	District Field Officer

MANATUTO District Office

Mr. Anastasi Rwegayura	District Administrator
Mr. Habonimana Aloys	Agriculture Officer
Mr. Fakhradin Al-Shaikham	Project Officer

AILEU District Office

Ms. Kate McIlwain	Health and AILEU Sub-District Field Officer
Mr. Kibayasi Seif	Infrastructure and Field Officer
Mr. Rainer Frauenfeu	Humanitarian Affair and Project Officer
Ms. Sukanya Mohan Das	Community Officer

AINARO District Office

Mr. Kazuyoshi Kuroda	MAUBISSE Sub-District Field Officer
Mr. Umar Kamarah	MAUBISSE Sub-District Field Officer

LAUTEN District Office

Mr. Gianni Deligia

District Administrator

3. CNRT

Mr. Jose Abel	Agriculture Department
Mr. Filomeno Jacob	Education Department (National Coordinator)
Mr. Domingo Souza	Education Department
Mr. Armindo Maia	Education Department

4. International Agencies, NGOs, Institutions, etc.

UNV (United Nations Volunteer : 国連ボランティア)	Mr. Joan Hondewa
GTZ (Deutsche Gesellschaft fur Technishe Zusammenarbeit : ドイツ技術協力公社)	Mr. Jim Metzger (R.R in East Timor)
UN-ILO (United Nations International Labour Organization : 国際労働機関)	Mr. James McAuley (Vocational Training)
ICRC (International Commottee of the Red Cross : 国際赤十字委員会)	Mr. Kuno Naohiko (Doctor)
	Mr. Kuchii (X-ray radiologist)
	Ms. Noriko Ikeda (Nurse)
MSF (Medecins Sans Frontieres : 国境なき医師団)	Ms. Christian Jnop
AFMET	Mr. Osamu Arakawa (Coordinator)
	Ms. Maria Pauline Iletto (Coordinator)
	Ms. Endo (Nurse/Sister)
	Ms. Komukai (Nurse)
ADRA Japan	Mr. Stephana T. Tsukamoto (Executive Director)
	Mr. Hikaru Izumiya (International Program Officer)
Peace Winds Japan	Mr. Koichi Yamauchi (Project Officer)
PPRP-PARC	Mr. Kiyokazu Koshida (Secretary General)
	Mr. Yasuyuki Kubo (Project Manager)
World Vision Japan	Ms. Yumiko Minami (International Programs)
SHARE	Ms. Kawaguchi (Nurse)
	Ms. Tokuda (Nurse)
	Ms. Kato (Nurse)
VEMASSE Village, Sub-District VEMASSE, District BAUCAU	
	Mr. Tomas Francisco (Chief of VEMASSE Village)
	Mr. Cosme Freitas (Ex-Chief VEMASSE Village / CNRT)
	Mr. Carlos Dasneues Pereira (Director of Junior High School)

FILORO Agriculture High School (Don Bosco)

Mr. Manuel Ximenes (Director)
FATOMACA Technical High School (Don Bosco)
Mr. Marcal A. Loys (Director)
Mr. Venancio Freitas (Head of Machine Shop)
Mr. Adriano de Jesus (Teacher)
Mr. Baltasar Pires (Teacher)
Mr. Locatelli (Teacher)
VENILALE Sisters High School (Don Bosco)
Ms. Joanna Goik (Director)
Ms. Justina Lopes (English Teacher)
Ms. Herminia (Teacher)
BECORA Technical High School
Mr. Antohinho Pires (Vocational School Director)
Mr. Tomas Soares Xavier (Coordinator)

5. 外務省関係者

Mr. Tetsuro Taniguchi	Consul/Second Secretary, Embassy of Japan
Mr. Akio Hasuka	Consul, Embassy of Japan
Mr. Yushi Suzuki	Third Secretary, Embassy of Japan

6. JICA 関係者・調査団

農業調査団	Mr. Toyozo Tanaka
	Mr. Tadashi Watahiki
緊急社会基盤整備計画調査団	Mr. Haruo Sakashita
水供給システム緊急整備計画調査団	Mr. Judo Hagiwara
緊急復興地理情報データベース作成調査団	Mr. Toru Watanabe

2 要請背景調査結果

2—1 調査要約

(1) 派遣取り極め、締結等に関して

4月14日、UNTAETのMs. Faith Harding宛にMINUTES案を提出。

4月20日付の三苦調査団長のレターとともにE/NのドラフトをMs. Hardingに提出。

E/Nドラフトに対して免責問題について協議中であり、回答を待つて欲しいとの連絡をMs. Hardingから受ける。調査期間中には回答を得られなかった。

(2) 派遣分野について

派遣分野については、農業、土木、教育、職業訓練、保健医療のそれぞれの分野を中心に調査した。UNTAETの担当者との協議、各県単位のUNTAET地方組織の担当者の意見、さらにJICAの他の支援スキームとの関連性等から総合的に判断して、当初の隊員派遣は村落復興支援分野（村落開発普及員、農業土木、農業機械、家畜飼育、獣医、園芸作物、建築施工、青少年活動等）と職業訓練（工業、家政等）とすることが望ましいと思われる。

(3) 安全確保対策

地域をある程度絞って、複数の隊員をまとめて派遣する方法が望ましい。

治安に関しては、別表にあるようにそれぞれの県にPKFとCivPol（文民警察）が配属されており、隊員派遣予定のBAUCAU県にはタイのPKFが駐留している。

また、調査団として滞在した1ヶ月間の経験から推し量るに、Dili市内もBaucau市内の治安も良好との印象を受けた。

(4) 訓練すべき言語

2000年5月時点では東チモールの公用語は決まっていない。広く話されているのはテトゥン語（アルファベットを使用、単語もポルトガル語を多く含む）である。インドネシアに統合される前に教育を受けた人はポルトガル語を流暢に話すが、統合以後に教育を受けた世代はポルトガル語はあまり話せず、インドネシア語を話す。概ね45歳くらいを境として、言語の違いが顕著なようである。

従って、学校教育はしばらくはインドネシア語で行われるとのことである。ただし、新しい国家が誕生し、公用語が決まった暁には、学校教育もその言葉を使用することになるだろう。暫定統治期間はインドネシア語またはポルトガル語のできる隊員を派遣することとし、公用語が決まった段階で訓練言語を決めることになるだろう。

2—2 隊員派遣について

(1) 派遣方法

派遣取り極めのレベルによって次のような方法が考えられる。

日本政府とUNTAETとの間で隊員派遣に関するしかるべき取極が結ばれるならば、UNTAETを通して、またはUNTAETに承認を得る形で隊員派遣の要請書を出してもらおう。

現状を見ると、UNTAETの地方組織は人事異動が早く、またカウンターパートとして活動できる人材が見当たらないことから隊員側から必要と思われる活動をオファーする形が望ましいと推察される。もし、しかるべき取極が困難な場合、または取極までにかかなり時間を要すると予測される場合は、特別短期派遣の緊

急性という条件を踏まえたうえで、他の制度を利用した派遣方式をとることもやむを得ないとする。

(2) 短期派遣期間

東チモールの正式な国家が誕生するまでの期間を当面の短期派遣期間と考え、誕生した後はできるだけ早く通常の派遣体制に移行していくべきである。短期派遣は情勢の変化に柔軟に対応できるように 6～12 ヶ月を単位として検討することが適切と思われる。

(3) 派遣形態

短期派遣隊員は即戦力、応用力、語学力、適応力等が要求されることから協力隊や日系社会ボランティアの経験者が適当と考える。安全対策さらには活動の独自性、効果、機動性等を考慮すると協力隊チーム（グループ）派遣の形態をとり、ある特定の地域にしばった村落復興支援を主目的として活動するような方法が望ましいと考える。技術学校で活動する隊員については、活動主体は学校になるが、学校と協議して時間があれば地域の農民も対象とした講習会等の活動も可能となるよう幅を持たせたものとした。隊員活動の環境整備のため、かなり準備期間が必要になると考えられるため調整員をできるだけ早い時期に派遣するよう要望したい。

(4) 派遣地域及び職種

治安、生活環境、緊急時の対応、他の JICA 事業との関連等から判断して、BAUCAU 県の西部に位置する 3 つの Sub-District (Baucau, Venilale, Vemasse) を対象とした地域を当面の活動地域として提案する。BAUCAU 市は東チモールの東北に位置し、Dili 市から約 130km（車で約 3 時間）、Dili 市に次ぐ都市といわれ人口は約 10 万人である。生活に必要なものは市内で調達可能であるが、水道だけが一部未整備である。

隊員の職種は、上述したチーム（グループ）派遣の形態でしかも村落復興支援を主目的とするならば、村落開発普及員、農業土木、農業機械、建築施工、家畜飼育、獣医、公衆衛生等。職業訓練校を主にした活動として、自動車整備、電子機器、家政、婦人子供服等が考えられる。

その他、水質検査、測量、理数科教師などの職種も要請があるが、チーム（グループ）派遣の形態や特定の地域に絞った派遣形態を取ることから当初は見合わせたく、第 2 陣以降に可能性を見つきたい。

3 調査概要

3-1 調査内容

4月7日（金）

18:00 UNTAET 高橋副代表表敬

顔の見える草の根レベルでの協力として協力隊による協力は期待されているし、私個人としても早期の派遣を望みたい、と述べられた。

4月8日（土）

08:00 JICA 事業所 渡辺所員と打ち合わせ

同調査団に対する JICA DILI 事務所コメントとして、派遣形態を①事業実施型、②チーム派遣、③他の JICA 技術協力や緊急無償などとの連携、JOCV 経験者を短期に派遣する案が提示された。

10:00 UNTAET 高橋副代表と方針会議

JICA 事業所のコメントに対し同調査団としても同じような考えであることを伝える。派遣方法については、専門家の派遣も調査団として実施されている現状から協力隊派遣に係わる E/N の締結は難しいだろうし、締結までにかなり時間を要するようであれば E/N 締結にこだわることは現実的ではないとの考えであることを述べた。高橋副代表は現実的な方法で可能な限り早期の派遣を希望する旨の発言があった。

14:00 LIQUICA 県を視察。

LIQUICA は最初に破壊活動の起こった町で、調査時点でも依然として学校をはじめ多くの施設が破壊されたままの状態に残っている。UNICEF 等の援助でカトリック系の小学校が再建され、1999年10月から授業を行なっている。生徒数約400人（6クラス）、教師数11人、午前と午後のクラスの2部制。使用言語はインドネシア語、ポルトガル語、TETUM 語など教師によって異なる。また、市場も視察したが、以前の場所は全壊で復興の目途なし。現在は別の空き地を利用して週に何度か市場が開かれている。町には小さな屋台程度の店があるだけで商店は見あたらない。医療施設は PKF ポルトガルの軍医による簡易なクリニックがある。医薬品は PKF 用の物を持ち出しているため不足しており、JICA が援助した医薬品を申請したいとのこと。病院（保健所レベル）は現在 PKF により再建中で利用できるまでには時間を要する。

4月9日（日）

08:00 デイリ市内見学、サンタクルス墓地は1991年に葬儀に参加していたチモール人の参列者に対してインドネシア軍が銃を乱射し多数の死傷者が出た場所として知られている。このことが東チモール人に独立への強い決意をもたらしたとも言われている。キリスト像の丘は海に向かって大きく両腕を広げている巨大なキリスト像があり、信心深いクリスチャンであるチモール人の象徴ともなっている。中央市場は雑踏の中で活気が感じられ、復興のバロメーターとも言えるだろう。

18:00 NGO 団体 SHARE と面談し活動内容について話を聞く。DILI 市内にある住居を見学。住居は一軒家の賃貸で家具付。

4月10日（月）

08:30 UNTAET 復興開発計画担当、山本氏と面談。

UNTAET の概要について説明を聞く。

09:30 JICA 農業専門家 田中氏、綿引氏と面談。

農業機械、稲作に関する調査内容及び現状について説明を受ける。ドンボスコ教会が運営している技術学校（農業学校・工業学校）についても説明を受ける。これらの学校への隊員派遣の可能性を強調された。

16:00 JICA インフラ・水供給調査団と面談。（堀田氏、松本氏、進藤氏、百瀬氏他）同調査団の業務内容及び東チモールにおける道路事情・水道事情等についての説明を受ける。灌漑施設の復旧及び維持管理技術者の必要性、浄水場の運転管理、水道施設の修理、水質検査の継続等、隊員派遣の可能性についての情報を得た。

4月11日（火）

09:00 UNTAET 農業部門責任者 Mr. Sergie Veruniau と面談。

UNTAET 農業政策についての説明を受ける。短期政策として、①東ティモール政府樹立までに食料自給率を 100%を目指す。②小規模農業や水産業をビジネスとして自立させる。具体的な作物として、米、コーヒー、メイズ、果樹等。その他、森林、畜産、水産業について現状を聞く。隊員派遣との関連では畜産・獣医師、灌漑技術者などの可能性が提案された。

10:00 UNTAET 教育部門責任者 Ms. Bodil と面談。

初等・中等教育の現状と各援助団体の活動についての説明を受ける。具体的には世銀による学校設備の再建や教科書の配布、UNICEF と CNRT の連携による教員研修プログラム、CONCERN や OXFAM などの NGO 団体による教師サポートなど、2000年10月の新学期スタートへ向けての準備が進んでいる。一方、公用語の問題に絡み、学校での使用言語や教科書の作成が課題になっている。当面はインドネシア時代の教育システムによるカリキュラム及びテキストを使用することになっている。また、5月1日から教員研修がスタートした。各県から数名選抜され6週間にわたって技術研修が行なわれる。

12:00 UNTAET Civil Service Program Unit の田平由希子（インドネシア OG）氏と面談。公務員研修プログラムについて聞く。コンピューター、ファイリング等オフィススキルの研修が英語で行なわれる。将来公務員となる予定の 130 人を対象としている。研修講師としての隊員派遣の可能性について打診された。派遣の候補として考えたいとは伝えるが、当面は援助効果を考慮して、ある地域に複数の隊員をまとめて派遣したい方針を持っている旨説明した。

4月12日（水）

14:30 DILI District Working Committee に出席。（UNTAET-DILI District Building）

DILI 県におけるドナー会議（定例会）で、UNTAET、PKF（ポルトガル、バングラデッシュ、マレーシア）、NGO 等約 30 人が参加した。各団体の現状報告や質疑応答など自由発言で進行。丹羽オーストラリア次長より同調査団が紹介された。

4月13日（木）

午前 MANATUTO 県視察。MANATUTO-D. A.. Mr. Anastasi Rwegayura と面談。
同調査団の目的、協力隊事業について説明。D.A.からは農業機械、灌漑技術者の要請が出された。市内の主な施設はほとんどの建物が焼かれていたが、市場は毎日開かれており小さな商店も幾つか見られた。MANATUTO 市内では夕方5時ごろから夜11時ごろまで電気が供給される。UNTAET 事務所では発電設備があるため24時間供給可能。AMI（Assistencia Medica International）ポルトガルの管理による病院がある。

14:00 外務省 DILI 連絡事務所、谷口氏と面談。

派遣方法について協議。口上書と合意書での派遣の可能性や E/N について意見交換を行なう。現状では DILI 連絡所は在インドネシア日本大使館の領事館的な役割であり、協力隊派遣取極については同大使館または外務本省のマスターとなるとのこと。

15:00 UNTAET 保健部門責任者 Mr. Jim Tulloch と面談。

UNTAET の医療保健分野の現状と今後の対策について説明を聞く。現状ではチモール人医師が全国で16名しかおらず、逆に看護婦（士）は多過ぎること。病院の経営に費用がかかりすぎるのが大きな問題となっており、今後全国で病院の数を5つ程度に病院程度にしたいと話した。また、看護学校の体制を整え、看護婦の技術を高めていきたいとのこと。

4月14日（金）

9:00 CNRT 教育部門担当 Mr. Filomeno Jacob, Mr. Armoindo Maia, Mr. Domingo Souza と面談。

2000年10月からの新学期に向けた CNRT 側の教育構想について説明を受ける。現在 DILI にある BECORA 工業学校、DILI ポリテクニク、東チモール大学をスタートさせるための準備を行なっているが、UNTAET 側との協力・連携が十分行なわれておらず、JOCV の要請については CNRT と直接できないかと話していた。隊員派遣には大きな期待を寄せており、特に職業訓練校の技術教師の派遣を強く希望している。調査団としては、職種としては協力隊に適しているが、学校の設備が荒らされており授業ができる状況ではないと判断した。近い将来、隊員の配属先として再調査を提案したい。

11:00 ICRC（International Committee of the Red Cross：国際赤十字）を訪問。（DILI 中央病院と呼ばれる）

14:30 UNTAET-Education Sector Meeting に出席。（会議場所は OCHA: Office of Coordination for Humanitarian Affairs）

UNTAET, UNICEF, AusAID, CRS, PPRP/PARC(*), Concern など9名参加。各団体の活動内容や今後の計画について意見交換。

* People's Peace Relief Project/ Pacific Asia Resource Centre

4月15日（土）

午前 AINARO 県 Maubisse を視察。District Field Officer Mr. Umar Kamarah と面談。

Maubisse Sub-District の概要や活動内容及びチモール人 NGO との連携によるプロジェクトや帰還民の問題等について説明を受ける。Maubisse は AINARO 県の北部に位置し、DILI から車で約 2 時間半。AILEU-MAUBISSE 間は所々道路が陥没していた。Maubisse 市内には市場や小さな商店がある。また食堂が 1 軒あり定食と紅茶で 7000 ルピア（約 1US\$）であった。Maubisse の UNTAET Office は丘の上にあり、隣にはポルトガル時代のホテルがあり風光明媚な所である。

午後 AILEU 県 Aileu を視察。District Field Officer 数名と面談。
各担当者に活動内容や現状を伺う。現場での調査において UNTAET スタッフの多くがテトゥン語はもちろんインドネシア語もできず、コミュニケーションがとれないことが最大の問題であると話していた。協力隊の派遣の可能性としては、建設・水供給技術者、環境調査、農業、公衆衛生、市場調査、経済、SE 等幅広く提示された。AILEU にはファリンテル（注 1）の本部が置かれているため、検問があり、銃を持った多くのファリンテルの兵士が見られた。町には大きな市場もあり賑わっている。市場内に喫茶店が 1 軒、通りに食堂が 1 軒ある。

4 月 17 日（月）

17:00 FILORO ドンボスコ農業学校着。

AFME（注 2）シスター遠藤看護婦、小向薬剤師と面談。（詳細は 3-2 他の援助機関及び NGO 団体の動向を参照）

4 月 18 日（火）

7:30 ドンボスコ農業高等学校視察。学校長 Mr. Manuel Ximenes と面談。

校内の施設・教室を視察。他の JICA 調査団がこれまでも訪問している。畜産科の教師の要請ほか 2000 年 10 月から開始予定の園芸科、水産科の教師についても打診された。

9:00 UNTAET-LOSPALOS DA Mr. Gianni Deligia と面談。

LAUTEM 県の現状と開発分野についての説明を受ける。必要とされる援助の優先順位は①保健②教育③農業④インフラ⑤WID⑥観光開発。現在、20 のプロジェクトが進行中。チモール人が自らの力で開発していくように援助していると語った。

14:00 UNTAET-BAUCAU DA Ms. Sawar Sultana と面談。

土木建築、発電所管理、灌漑、水供給システム修復、食糧管理等の派遣要請が出された。農業機械専門家については JICA へ要請済みとのこと。

15:00 UNTAET-BAUCAU District Field Officer 5 名と面談。

各担当地区の現状について聞く。技術援助が必要な分野としては、①灌漑施設を含む土木建築②畜産・水産③栄養改善・公衆衛生など。

（注 1）ファリンテル：独立を支援してきた軍事組織

（注 2）Alliance Friends for Medical Care In East Timor：東チモール医療友の会

4月19日（水）

7:30 FATOMACA ドンボスコ工業学校視察。

学校の概要、コース等について説明を受ける。各科の担当教師と共に実習室を見学。学校施設はまったく破壊されていない。実習用機械・器具、設備は外国からの援助により充実しており、カリキュラムも整っていた。コンピュータ知識のある電子科・電気科教師が不足しているとのこと。

9:30 VENILALE ドンボスコ家政学校視察。

学校長が不在で、学生もイースター休暇でいなかったため校内の見学に留める。Fatomaca 工業学校と同様、施設はまったく破壊されていない。シスタースクールらしく清潔な学内であった。

11:00 BAUCAU 市内水道ポンプ場視察

BAUCAU 市街の中心に位置する。一部のポンプが稼働していない為ポンプ場より高い地域は午前中3時間しか水は供給されていない。また高台にある新市街地域は途中のポンプが壊れており、給水車から水を購入している状態。復旧作業はドイツの援助により行なわれるそうだが、現在のところ作業は開始されていない模様。

4月20日（木）

10:00 高橋副代表へ中間報告会（JICA 事務所）

高橋副代表から E/N について、締結は難しいとの認識で調査を進めているが、UNTAET 側から締結できない旨を文書でもらっているか。派遣方法を検討する上で、その点を明確にして次の方策を考えるべきではないかというコメントがあった。これを受けて、E/N のドラフトを UNTAET の Ms. Harding (Deputy SRSG である Mr. Cady の補佐官) に届け、回答を貰うこととした。(後日受け取った回答は、免責条項について協議するとの文面だが、調査団が帰国するまで協議の結論はもらえなかった)

4月24日（月）

9:00 UN-ILO 職業訓練担当 Mr. James McAuley と面談。

職業訓練校の現状について説明を受ける。教員・スタッフ教育の問題、言語の問題等を抱え、計画段階にある。CNRT 側との連携が十分取れていないとの印象を受けた。BECORA 工業学校にはオーストラリアの Northern Territory University からインストラクターを派遣して 6 ヶ月の教員トレーニングを行っている。NGO では APHEDA, TimorAID などが協力して活動している。

4月26日（水）

8:00 LIQUICA 県にて NGO 団体 Peace Winds Japan の活動現場を視察。同 NGO の職員 Mr. Barry と山内氏と同行。DILI 市内の事務所兼住居を見学後、プロジェクトサイトへ向かう。途中 UNHCR の資材倉庫を視察。LIQUICA 県内の村でのコミュニティーホール（公民館）建築の活動を視察。村人によって切り出された木材をトラックで運搬する作業（現地スタッフが中心となって活動）から建築現場での住民との交渉や作業方法を視察。

途中の山道で前日の雨のためトラックがスタックするなどハプニングも起きたが、現地スタッフの精力的・献身的な活動が見られ参考になった。途中、同 NGO が配布した

資材によって多くの家の修復が行なわれており、山頂から見たきらきら輝くトタン屋根の景色が印象的であった。

4月27日（木）

AINARO 県 Maubisse を視察。人道援助部門の District Field Officer 黒田氏と面談。

Maubisse における活動について説明を受ける。進行中のプロジェクトでは WID の民芸品製作や淡水魚養殖などがある。CRS や Concern などの NGO が住民和解や青年グループとの連携で活動中。JOCV の活動について意見を聞いたところ①UNTAET の担当オフィサーと協力しながら独自性を発揮して活動を展開するのがベターである。②UNTAET の地方組織から要請を出してもらっても CNRT（注 3）との連携に注意する。特に UNTAET と CNRT との関係は地域によって様々であるため状況をよく把握する必要がある。③CNRT の中にはすでに以前の政党に分派している地域もあり、活動において各政党との関係に注意が必要である等のコメントをいただくとともに、若者の意欲活用、雇用促進の観点から技術移転・協力の必要性などについて幅広く意見を伺った。この日は DILI から帰還民が戻ってきたため町が大変混乱していた。

4月28日（金）

9:00 CNRT 教育担当 Mr. Domingo Souza と BECORA 公立工業学校（DILI 市内東部）視察。

職業訓練学校責任者 Mr. Antoninho Pires その他の関係者も同行。

同学校の概要説明を受け、校内の見学。校舎は残っているが実習用機材・機械等が奪われたり壊されたりしており、授業は始まっていない。教員は以前は 80 名いたが、現在はその中でチモール人教師の 7 名しか残っていない。

電気・電子・自動車整備・溶接・建築の各科とも教師の不足、機材の不足、カリキュラムの未整備など多くの問題を抱えている。TimorAID の援助による英語、ポルトガル語の語学クラスとタイプ、コンピュータ操作のクラスが臨時的に開かれている。2000 年 10 月に新学期スタートの予定だが状況は厳しい。教員をはじめ資機材の支援要請があった。

（注 3）CNRT: National Council of Timorese Resistance

5月1日（月）

東部 3 県（MANATUTO, BAUCAU, LAUTEN）を 4 泊 5 日にて調査。

宿泊は BAUCAU 市内の Hotel Antika（1 泊朝食付 50,000 ルピア）

9:00 MANATUTO 市内の AMI（Assistencia Medica International）の管理する病院を見学。

祝日のため病院は休みで AMI のスタッフも不在だったが、ローカルスタッフに概要を伺う。以前銀行だったビルを改装して 1999 年 12 月から開始。マラリアの入院患者が 1 名。ベッドは以前から使用している竹製のものとオーストラリアから寄贈されたパイプベッドの 2 種類。

13:30 MANATUTO 県及び BAUCAU 県の灌漑施設を視察。

MANATUTO の灌漑設備は支流の増水により毎年流されていて、視察したときも壊れた状態であった。水路にはまったく水がなく、田には雑草が生い茂り広大な地域が草原化していた。BAUCAU の灌漑施設の取水口を視察に行ったが、途中地滑りのため道が閉鎖

されていた。幹線道路から 10Km ほど入った場所で、復旧作業はその土地の管理者が住民を雇用して行なっていた。トラクターは FATOMACA 工業学校から借りたとのこと。水路の上流部はよく整備されていて水も十分流れていた。その周辺は水が行き渡り広大な稲作地帯で稲が青々としていた。

5月2日(日)

8:30 BAUCAU 中央病院を視察。MSF(国境なき医師団)ベルギーによる運営管理。建物は破壊されておらず地方病院としては大きな病院であった。設備も一応整っている。各科のローカルスタッフからの聞き取り調査を実施。

15:00 FILORO 農業学校を視察。

2000年1月に JICA へ A-1 フォームと要請書がすでに提出されていることが判明した。その後何の連絡もないため学校長は JICA への不信感を抱いている。何等かの早急なフォローが必要と思われる。

5月3日(水)

8:30 FATOMACA 工業学校を再度視察。学校長 Mr. Marcel A. Loys と面談。

試験期間中であった。学生は礼儀正しくよい印象を受けた。学校長からの要請は①コンピュータ知識のある教員、②自動車整備(トラクター等の修理)の技術者。教員へ指導要請も出されカリキュラムの改良を行なっていきたいとのこと。

11:00 VENILALE 家政学校を視察。英語教師 Ms. Justina Lopes と面談。

被服科・調理科の2コースの概要を聞き、学生たちの実習の様子を見学。学生は非常に礼儀正しくさわやかな印象を受けた。被服科は各学年1名の教師がいるが、ミシンが故障して使えなかったり、材料の入手が困難であること、教材・テキストの不足などの問題がある。調理科は専任の教師がいない状態でシスターが代行しているとのこと。調理用ガスが手に入らないため薪のコンロで実習している。また調理用材料も入手困難で、現在はパンとお菓子作りの実習のみ。テーブルマナーなどの授業もある。以前は展示会へ出展したり、縫製工場やホテルでの教育実習、地域の人からの注文を受けたりしていた。

15:00 VEMASSE Sub-District を視察。UNTAET-Field Officer、Mr. Shaihou Njai に同行。

Venilale 郡の有力者に JOCV について説明した。

18:00 VEMASSE 村長 Mr. Tomas Francisco と面談。

村長自ら調査団の宿泊する BAUCAU のホテルまで来てくれ、村の現状について説明をされた。村落復興に関する重点項目は①農業(村民に担当の農地を提供し収穫量の向上を図るプログラムの実施)②教育(校舎が破壊され机やイスなど備品をすべて失った。教員も不足している)③灌漑設備(修理が必要)④水供給(井戸から水を得ているが、ポンプが故障している)⑤保健(MSFによる巡回が週3回ある。保健衛生の質の向上が必要)その他女性グループによる織物の製作、青年グループによるスポーツ振興や教会をとおしても活動など村全体でさまざまな活動が行なわれている。援助は WFP による米配給のみで、UNHCR や NGO などに申請しているが現在まで何の援助も受

けていない。村長は大変熱心で活動的な若者であるが英語力が乏しいため UNTAET や各ドナーとの交渉が困難で支援を得られないと話していた（調査団との会話はインドネシア語で行った）。

5月4日（木）

午前 VENILALE 家政学校校長 Ms. Joanna Goik と面談。

調査期間中に 3 度目の訪問にしてやっと学校長と面会できた。学校長は調査団の訪問を期待して待っていた。学校の概要についてはすでに聞き取り済みのため省略。被服科及び調理科教師の要請を受けた。住居の提供も可能であり（校内の宿泊施設を使用）隊員の要請書はすぐにでも出せると話していた。すでに語学教師としてオーストラリアとポルトガルからのボランティアを受け入れている。また、隊員の活動内容として地域住民への巡回指導や講習会開催に関しても問題はないとのことだった。

午後 VEMASSE 村を視察。前村長で CNRT 代表者 Mr. Carlos Dasneues Pereira と面談。

現村長の父。村での権威者で長老的存在。調査団の訪問に対して大変敬意を持って迎えてくれた。村の問題点として①農業（トラクターなど農業機械の不足）②灌漑施設③教育施設（机・いすなどの不足）④住宅の崩壊など。その他、ねずみによる稲作の被害への対策、住民グループへの支援などの要請があった。面談には中学校長の Mr. Carlos Dasneues Pereira が通訳として同席。小学校・中学校も見学した。

VEMASSE 村内ヘルスセンター看護婦 Ms. Maria Dofatima、調整業務 Ms. Marcelino と面談。診療体制や現状について聞いたところ、チモール人看護婦（士）7名、助産婦3名歯科看護婦2名の体制でおこなっており、MSFからの医師、看護婦、助産婦、通訳が週1、2回巡回診療にくる（薬品持参）。

Ostico, Loiludo, Ossoala, Yaigae, Caicua 地区の診療所にはスタッフがおらず薬品が不足している。多い疾患はマラリア、皮膚病で重傷の場合は BAUCAU の病院へ搬送する。診療所は一部壊れており設備も整っていない。看護婦（士）の雇用や給与に問題等があるとのことであった。

3-2 他の援助機関及び NGO 団体の動向

1. UNV (United Nations Volunteer: 国連ボランティア)

Mr. Joan Hondewa と面談

2000 年 4 月現在で約 250 名が活動中。その中で日本人は 1 名のみ。6 月末までには新たに 230 名を増員する予定。これまで事務職がメインであったが今後は技術職を配置するとのこと。手当ては住居費込みで月額 2250 米ドル。その他、着後手当てとして 1000 米ドル支給。

2. GTZ (Deutsche Gesellschaft für Technische Zusammenarbeit: ドイツ技術協力公社)

Mr. Jim Metzger と面談。

2000 年 4 月現在、BAUCAU 県の水供給システムに支援。ボランティアは派遣していない。現在 UNTAET とは政府間の取極めがないが、ドイツ政府としては時間がかかっても正式な派遣取り極めを結ぶよう UNTAET に働きかけている。

3. ICRC (International Committee of the Red Cross: 国際赤十字委員会)

久野医師、口井レントゲン技師、池田看護婦と面談。DILI 中央病院を視察。昨年 10 月から活動開始。ICRC は病院の運営、管理（薬剤、医療物品を含め）業務、及び直接の医療行為を実施。ICRC のスタッフは、医師、看護婦、助産婦、レントゲン技師、事務等多部門にわたる。それぞれ各部署に分かれて、日常の診療看護、及び現地スタッフへの教育、指導もしている。ICRC のスタッフは病院の敷地内に居住しており、任期はだいたい 3 ヶ月から 6 ヶ月とのこと。日本人スタッフは、現在外科医 1 名、産婦人科医 1 名、レントゲン技師 1 名、看護婦 1 名（交代で 3 人目）。ICRC は本来緊急救援活動が主体であるが、病院の状態は緊急事態を脱しつつあり、いつまで活動するかは未定である。

4. MSF (Medecins Sans Frontieres, Belgium: 国境なし医師団ベルギー)

Ms. Cristina Jnop と面談。活動場所の BAUCAU 病院を視察。

運営と薬剤・医療物品を含めた管理業務を実施。診療、看護、検査などの直接医療行為は、主にチモール人スタッフが行なっているが、MSF から外科医一名がすべての手術を実施している。また MSF の医師が緊急呼び出しに応じるシステムがあり、必要に応じ検査技師が諸検査の補助を行なっている。BAUCAU 県内の 6 カ所のヘルスセンターにて巡回診療を実施。医師、助産婦、看護婦、通訳がグループを組んで週 2 回、9 時から 13 時まで、診療、投薬、ワクチン接種、及びチモール人への指導を行なっている。移動用に MSF 独自で 4 駆自動車を数台所有している。

5. AFMET (Alliance of Friends for medical Care In East Timor: 東チモール医療友の会)

荒川コーディネーター、ポーリンコーディネーター、シスター遠藤看護婦、小向薬剤師と面談。診療所を視察。JICA 開発福祉支援対象 NGO 団体である。LAUTEN 県 FILORO にあるカトリック教会（ドンボスコ）の運営する農業学校内で診療所を開設。1991 年に設立。8 年間の診療活動と公衆衛生活動をしている。コーディネーター 2 名、看護婦 2 名、薬剤師 1 名の 5 名体制。内服の指示は、この地域で使われている Fataluku

語を使用。現地の看護婦は教育をインドネシア語で受けている。結核治療は National TB Control Program に基づき実施している。重症患者は Lospalos の MDM (Medecins du Monde-Portugal) の病院に移送する。マラリア (1 日約 50 人の患者) と結核患者が多い。現在、学校近くに新診療所を建設中。DILI 市内に事務所兼住居を確保し、コーディネーター 1 名が滞在している。

6. ADRA Japan (Adventist Development and Relief Agency-Japan)

塚本氏、泉谷氏と面談。JICA 開発福祉支援対象 NGO 団体。DILI 市内の市場設備復興活動。

アドベンティスト教会系の NGO で世界の国々で開発援助活動を行なっている。日本人スタッフ 3 名、チモール人スタッフの 3 名体制。同教会の病院や学校が各国にあり、東チモールにおいても大学復興支援や病院設立などを計画している。市場復興計画では、現在残る建造物を生かしたチモールの伝統建築をモデルとし、市場に隣接したバスターミナルやコミュニティースペースも計画している。DILI 市内の教会敷地内に事務所兼住居を確保している。

7. WORLD VISION Japan

南氏 (リエゾン・オフィサー) と面談。JICA 開発福祉支援対象 NGO 団体。

日本人スタッフは 1 名で、他は World Vision International のスタッフ及びチモール人スタッフ。AILEU 県内 8 箇所のヘルスポストの修復と看護婦のスタッフの教育を行っている。ヘルスポストのある各村から 5 名ずつの代表者を出してもらい、彼らとの話し合いの中で、その村での活動計画等を決定する。活動は 36 ヶ月の予定している。

8. PEACE WINDS Japan

山内コーディネーター、Mr. Barry と面談。プロジェクトサイトを視察。

LIQUICA 県でのシェルター用資機材の配布活動を実施中。1999 年 10 月よりいち早く活動を開始。現在までの活動市域でのシェルター用資機材配布 (3500 セット) はほぼ終了し、次のサイトとして DILI 県の COMORO 地区を予定している。(追加 900 セット) UNHCR の資金援助による SURABAYA 買付けの資材を利用。LIQUICA への幹線道路脇に独自の資材倉庫がある。各村へ配布する前段階として、チモール人スタッフによる対象村の現況調査を行っている。(焼家、世帯数、人口等聞き取り調査) シェルター資材を配布する際に、組み立て方の基本指導を行い、その後は各村の住民の手で行なっている。活動の基本方針は、日本人及びインターナショナルスタッフを最小限にし、現地のスタッフ及び村民自身の労力を活用することにある。

シェルター用資機材配布とは別に、各村にコミュニティーホール (公民館) の建設を行っている。伝統様式の建造物を建て、帰還難民と住民の和解プログラムや各種のワークショップ、職業訓練のためなどに利用することを目的としている。資材はすべて現地調達のものを利用し、木材の切り出しを村民が行い、当 NGO はその運搬を手伝う。建設においても、基本的な指導のみに留め、出来る限り住民たちの手で行なう方針である。DILI 市内に事務所兼住居を確保し、車 13 台分の駐車スペースもある。

9. PARC (Pacific Asia Resource Centre: アジア太平洋資料センター)

久保氏、越田氏と面談。

1999年9月にPPRP (People's Peace Relief Project) として約20の日本のNGO団体が集まり、東チモール緊急援助の活動を開始。LIQUICA 県を中心に物資配給や学校復興資材の配布活動を実施中。4月末で緊急フェーズが終了したため、PPRPからPARC独自の活動に移行中。LIQUICA 県内で農村復興支援を行っている。対象地区は156世帯のファウララ地区と88世帯のロエス地区の2ヶ所。地域の選定に当たって、村内での組織が比較的しっかりしていた地区をサイトとして選んだ。現地のキリスト教団体 ISMAIK と連携し、農民グループや女性グループとの話し合いを通じて復興活動を行っている。活動内容は農業支援（農機具の支給、田植えなどの技術指導、灌漑設備の建設など）、教育支援（学校の再建学校給食の配給、チモール人学生団体との連携による親子講習会など）、女性グループへの識字教育、保健衛生指導などである。2000年10月から2003年9月までの36ヶ月の活動予定。

10. SHARE (Services for the Health In Asia and Africa Regions: 国際保健協力市民の会)

川口看護婦、徳田看護婦、加藤看護婦と面談。

日本人医師1名、看護婦3名、コーディネーター1名の5名体制で、ERMERA 県内のヘルスポストにて活動している。住民参加型のプライマリーヘルスケアを草の根レベルで展開中。DILI 市内に住居を確保。現在は毎日活動場所まで通っている（約2時間）が、今後現場へ引っ越す予定である。2000年3月から2003年3月まで3年間の活動予定。

11. BAUCAU 県における主なNGO団体

- ・ MSF (国境なき医師団ベルギー)
- ・ CRS (Catholic Relief Services)
- ・ ICRC (国際赤十字)
- ・ CARITAS

12. TIMOR 人によるNGO団体等 (4月現在 UNTAET 登録121団体)

- ・ TIMOR AID チモール最大のNGOでAustralia Instituteとの連携で教育（英語・ポルトガル語研修）、保健など幅広く活動している。
- ・ DSMPPT (Dewan Solidaritas Mahasiswa Pelajar Timor Timur 東チモール学生連盟) NGOではないが、東チモール全国に広がる大学生の団体。DILIに本部を置き、各町に支部がある。住民レベルの活動から、政治、経済、教育など国造りに関する活動まで行っている。DILI 東部地区代表 Arsenio Pereika と面談。

3-3 生活環境

東チモールの主要都市であり、当面の JOCV 派遣計画予定地域である DILI 及び BAUCAU について報告する。

1 人口

Dili……約 15 万人 Baucau……約 10 万人（いずれも推定）

2 電気、水道、ガス

電気・・・ Dili, Baucau とも 24 時間使用可能。時々停電あり。

水道・・・ DILI 市内はだいたい良好だが、漏水や揚水ポンプ・水道管の破損により支障のあるところもある。Baucau 市の新市街地域は揚水ポンプの破損により水道から水の供給が出来ず、給水車から水を購入している。

ガス・・・料理用ガスボンベはまだ普及していない。一般家庭は灯油使用のコンロを使っている。

3 物価

Dili と Baucau では品物の価格に大きな違いはないが、インドネシア統治時代より 2 倍～4 倍ほど価格が上昇している。（ ）内はインドネシア統治時。

（例）野菜 1 山・・・5 千～1 万ルピア（約 2 千 5 百ルピア）

牛肉 1kg・・・2 万 5 千ルピア（約 1 万ルピア）

鶏 1 羽・・・8 万ルピア（約 2 万ルピア）

ガソリン 1 リットル・・・2 千 5 百～3 千 5 百ルピア（5 百～1 千ルピア）

インドネシア統治時代もジャワ島から離れているため、もともと物価は高めだったと考えられるが、現在のインドネシアの物価と比較しても 3 倍～4 倍高い価格である。聞き取り調査によると、インドネシア統治時代のチモール州の公務員の給与は 1 ヶ月 60 万ルピアほどで、インドネシアに比べ 2 倍～3 倍高かったようである。

4 主な施設

①銀行・・・ Dili ではポルトガル系の BNU (Banco National Ultramarino) が、UNTAET 本部近くと船上ホテル OLYMPIA の 2 ヶ所で、豪州系の WestPac が 1 ヶ所で営業している。BNU は外貨交換（現金のみで米ドル、豪ドル、インドネシアルピア、ポルトガルエスクード）、口座開設、ポルトガル経由で海外送金・預金が可能、WestPac は外貨交換、T/C のキャッシュ化を行っているが、まだスムーズな状況とはいえない。Baucau では BNU の看板のある建物が旧市街の大通りにあるが、まだ営業していない。

国連の暫定統治下にある間の通過は、インドネシアルピア（チモール人スタッフ給与、市場での買い物等）、米ドル（UNTAET からチモール人職員への給与、ホテル、郵便切手等）、豪ドル（ホテル、豪州系の企業、レストラン等）の 3 種類が併用されている。両替に関しては、BNU 付近や市場（Dili, Baucau とも）に個人の両替商がおり交換レートはほぼ銀行と同じである。

②郵便局・・・ Dili では UNTAET 本部の東隣に郵便局が開設され、2000 年 4 月末から業務が始まったばかりである。国内では Dili, Baucau のみ配達可能とのことであ

- る。
- ③市場、商店・・・ Dili の中央市場は日に日に拡大しており、食料品、衣類、雑貨、薬品（ただし品質に問題あり）等主に西チモールからの物資が豊富に出回っている。Olympia ホテル内の売店、空港へ向かう道沿いの Toyota 販売店の 2 階とその近くの East Timor Car Rental 内（家具、電化製品等）、Loposae ホテル裏のスーパー Haksolok（食品、雑貨）等で生活必需品は購入できる。また、Dili 市内で一般市民向けの商店も続々開店している。Baucau では旧市街、新市街とも食料品中心の市場が毎日開かれており、商店は品数に限りがあるが雑貨、衣類等も販売している。
 - ④レストラン・・・ Dili では外国人を対象にした Uma Mutuk（ポルトガル料理）、Totonito（ポルトガル料理）、マラビナ（インドネシア料理）、Hotel Dili（オーストラリア料理）、Caf Dili（オーストラリア料理）、オリエンタルレストラン（中華料理）、Fato hana（インドネシア料理）等があるが、料金は外国人価格で高い。Olympia ホテル近くの海岸沿いにある屋台や街中には一般向けの食堂も出来つつある。Baucau ではレストランが 2 軒あるが値段は高い。新市街のバスターミナルに一般向けの食堂がある。
 - ⑤理髪店・・・ Dili では Lorosae ホテルの近くに Susana 理髪店がある。他にも Dili、Baucau 市内で Salon（理髪、美容院）の看板は見かけた。
 - ⑥コピーサービス・・・ Dili 市内に最近開店した。

5 住居

- ①Dili・・・ホテルは、Olympia（船上）、Lorosae、Hotel Dili、Turismo、Paximus Lodge 等があるが、UNTAET スタッフが長期滞在しているため空室が少なく、料金も高額である。（80～120 豪ドル）NGO などは事務所や住居用に民家を借り上げているが、修復の必要性や、権利の不明確な状態（元の持ち主がインドネシア人であったとか政府の所有であったなど）から借用物件が少ない、また物件はあってもトラブルが多い等の理由で、賃貸家屋探しは困難である。NGO は、教会関係や地元の有力者の紹介など人づてで情報を得て契約を結んだり、UNTAET の職員の紹介で借りたりしている。また、最近 UNTAET 本部やレストラン等に、貸家の情報が出てきている。
（参考）AFMET の事務所&住居……Comoro 地区にある住宅街の一角、近くの DonBosco 教会の神父の紹介（契約書は彼を通じて交わした）で見つけたもので、大家は CNRT の人で近所に住んでいる。
部屋・・・客間、居間、個室（4）、ダイニング、台所、浴室、トイレ
家具なし。電気、水道 24 時間使用可能。灯油のコンロ使用。駐車場あり。
家賃・・・170 万ルピア（約 300 米ドル）/1 ヶ月。1 年の契約。
- ②Baucau・・・ホテルは UNTAET スタッフの長期滞在により空室を得るのは難しい。本調査団は Hotel Antika の 1 階部分（以前はレストラン、商店だったところにシャッターを降ろして部屋としている、ベッドあり）に宿泊した。（一泊 Rp.50000）但し長期滞在は安全、騒音、プライバシー確保の面で、不适当と思われる。民家の借り上げに関しては Dili と同じで限られている。新市街地区には修復すれば使用できそうな家はいくつか散見されたが、水の問題がある。UNTAET のフィールドオフィサーの一人は、新市街地区で家を借りており（大家が水を購入してくれる）、UNTAET や地元の有力者を通して情報収集することを薦めたい。

6 医療施設

①Dili・・・ICRC（国際赤十字）運営管理による Dili 中央病院

病床数……約 200 床。

ICRC から外科医 2 名、内科医 1 名、婦人科医 1 名、麻酔科医 1 名、小児科医 1 名、看護婦、助産婦、レントゲン技師、事務、薬剤管理等が入っている。（日本人は、婦人科医、外科医、看護婦、レントゲン技師の 4 名。）病棟は内科（女性、男性）、外科（女性、男性）、産婦人科、小児科、ICU があり、外来は救急外来（24h）、内科、外科外来（チモール人医師）、歯科がある。検査は一般血液、生化学、培養、レントゲンが可能である。医薬品、衛生材料等は足りている。手術は可能だが、輸血の設備はまだない。診療代、入院費等はすべて無料。ICRC が負担している。看護婦（士）、助産婦等のチモール人スタッフは充足しているが技術、知識レベルはまだ低い。現在は ICRC スタッフが通訳を通じて教育指導している。現在 ICRC が全面的に運営しているため、医療サービス状況は特に問題ないと思われる。今後は ICRC の活動予定期間と、チモール人スタッフによる病院管理への移行、技術移転等が重要なポイントになってくるだろう。現時点では国際赤十字の活動予定期間は未定である。

②Baucau・・・MSF-Belgium（国境なき医師団ベルギー）運営管理による Baucau District Hospital

ベッド数は 106 床。病棟は外科、内科（隔離室あり）、小児科、産婦人科がある。外来は救急外来、内科、歯科、予防接種外来があり、一般医 3 名（チモール人）で入院患者を診察している。外科医 1 名（MSF）が手術（事故、骨折、ヘルニア、帝王切開等）実施。検査はレントゲンあり。血液一般、肝機能、マラリア、デング、結核クロスマッチ、尿検査は可能であるが培養検査、輸血管理はできない。Viqueque, Lautem, Manatuto からも患者が搬送されて来ている。主な疾患はマラリア、結核、下痢、呼吸器感染症、皮膚病などがある。

③Manatuto・・・AMI-P（Assistencia Medica International Portugal）病院

ベッド数は 13 床。AMI スタッフは医師 2 名、看護婦 2 名、検査技師 1 名がおり、チモール人スタッフは看護婦、看護師 5 名、助産婦 2 名、通訳 2 名がいる。分娩、血液検査は可能だが、レントゲンはない。救急車及び病院所有車は計 3 台ある。以前銀行として使っていた建物を仮使用し規模も小さい。重症患者は Dili、Baucau へ搬送している。

Dili、Baucau において、ある程度の疾患の治療は可能であるが、輸血を伴う大きな手術等は、東チモール国内では不可能と思われる。緊急事態の場合はダーウィンの Royal Darwin Hospital への移送等を考慮する必要があるだろう。

7 治安

PKF による治安の維持が行われており、Deli や Baucau における現在の PKF の配置状況は次のとおりである。

①Deli・・・PKF（ポルトガル、ケニヤ、ブラジル）

②Baucau……PKF (タイ) Civilian Police (文民警察 87 名)

8 通信

- ①電話・・・Dili では、オーストラリアの TELSTRA 社により固定式電話回線が設置され始めている。通常は同じ会社の携帯電話を使用している。レストラン等でプリペイドカードを取り扱う店も出てきている。
- Baucau では、市内は携帯電話の使用はできないが、旧空港付近のエリアで Dili との交信は可能である。それ以外の地域はインマルサット（衛星電話）を使用することになる。
- 携帯電話と Windows 系のパソコンを使って、データの送受信は可能であるが容量の制限があり、またインターネットへの接続は困難である。携帯電話とパソコンを繋ぐケーブルはオーストラリアで購入できる（179 豪ドル）。FAX は UNTAET や援助機関事務所（JICA 含む）、ホテル等で設置しているが、一般向けのサービスはまだ始まっていない。
- ②郵便・・・4 月末から郵便サービスが始まった。切手の絵柄は 1 種類で、国外国内で色が異なる。切手に値段は記入されていないが、国外用一枚 50 米セント、国内用 10 米セントで、封書、葉書どこでも切手一枚でよいとのこと。日本まで約 10 日かかる。国内は Dili と Baucau との間のみ開始とのことだが、配達システムなど詳しいことは不明。Dili 郵便局には私書箱が設置されていた。
- ③クーリエ・・・TNT の Dili 代理店 AFS East Timor で実施。

9 交通機関

東チモール (Dili) のフライト

- * Darwin-Dili 国連機・・・月曜日～金曜日まで一日一便、UN スタッフ優先だが、空きがあれば NGO 等も無料で利用可能。
- * Darwin-Dili Air North・・・毎日三便、機体は小さく（19 人乗り）、持込荷物は 20 kg（パンフレット上は 13kg）まで。
- * Darwin-Dili Qantas・・・2000 年 5 月から運行開始。詳細不明。
- * Denpasar-Dili Merpati (インドネシア)・・・2000 年 5 月から月、水、金の週三便に増便。

その他（陸路移動）

主要都市間は乗合バスあり、Dili-Baucau 間は 2 万～2 万 5 千ルピア、Dili-Lospalos 間は 5 万ルピア。一応出発時間は決まっているようだが、乗客が満員になったら発車する様子で、すし詰め状態である。

Dili 市内は乗合小型バス（5 千ルピア）が徐々に増えているが、タクシー（市街地域内 5 千ルピア、市街地域外 1 万ルピア、メーターなし）の方が多。

Baucau 市内にはタクシーがなく、乗合小型バス（1 千ルピア）が唯一の公共交通機関である。

長距離バスの台数は増えてきているようであるが、まだまだ移動手段は限られてくる。

10 言語

- 8 割くらいの東チモール人はテトゥン語を話せるが、Lauten 県の人々はファタルク (Fataluku) 語を話す。おおよそ 45 歳より上の世代はポルトガル語で教育を受けて

いて読み書き会話ができ、それより若い世代はインドネシア語で教育を受けているため 30、40 代以下の世代は、ポルトガル語は多少理解できても話せない人が多い。英語を話せる人はかなり限られる。公用語はまだ未定である。Dili、Baucau ともインドネシア語で生活に不自由はない。日常の生活にテトゥン語を使っているが、地域毎に地方語を持っている。UNTAET のスタッフのなかにポルトガル語やインドネシア語のできる人が極めて少ないため、チモール人との意思の疎通が難しいとの訴えがあった。

4 協力隊派遣計画

4-1 協力隊のニーズ

インドネシアの一州であった時代は多くの技術職はインドネシア人が担当しており、東チモール人の技術職はかなり限られていたようである。従って、あらゆる分野において中堅技術者は大幅に不足している。UNTAET の本部にしても地方組織にしても、聞き取り調査の結果は技術を持った人を必要としているとのことであった。従って、短期的にも中長期的に見ても、技術系分野での協力隊の要請が出てくると予想される。

4-2 重点分野

UNTAET、CNRT とともに農業を復興事業へのメインに上げており、農業人口が国民の多数を占めることから、東チモールへの協力はまず農業分野であろう。これまでであった地方農民組織の建て直し、その組織を利用した村落復興は短期的にも中長期的にも協力隊の活動分野としては中核となりうると言える。また、人材育成、特に中堅技術者の育成という観点から、技術学校への協力を重点分野にすることも適当と考える。当初は設備の整った Don Bosco 教会系の技術学校での活動を考えているが、将来は公立の技術学校への協力も当然考慮すべきであろう。

4-3 他の JICA 事業との関係

JICA が 2000 年 2 月から展開しているインフラ整備、水供給、地図情報システム、農業関係の調査やプロジェクト等の関連及びフォローも視野に入れた職種と活動内容を考慮したい。

4-4 事業展開

短期的派遣と中長期的派遣を視野に入れた事業展開を考える。短期的派遣は「2 要請背景調査結果」で述べたとおりである。中長期的には一般隊員の通常派遣を実施する。派遣分野や派遣職種の当初と比べて広範囲に展開することになる。当初の短期派遣は農業を中心とした村落復興支援と技術学校への派遣を主分野として 5~10 名の派遣としたい。

5 考察

5-1 考察

ディリに滞在した 4 週間、日に日に街の様子が変わっていく様子が感じられた。車の台数が増え、簡素ではあるが焼けた建物の中でも商店がオープンし、レストランもあちこちに開かれている。このように庶民の生活の中にも少しずつ復興の兆しが見られ、これから半年後、1 年後の変化は予想しがたい。

UNTAET、CNRT、NGO そして JICA 関係者等の意見を伺い、また実際に街の急速な変化を目のあたりにして、東チモールの情勢は緊急支援が必要な状況から脱しつつあると感じられる。国際機関や NGO による復興に向けた活動は今だに盛んであるが、これからはバイラテラルな援助も徐々に展開されていくのではないかと。

このような状況下において、協力隊の派遣は必要性和時期を得たものであり、UNTAET や CNRT は大きな期待を寄せていると強く感じられた。

5-2 提案

東チモールは UNTAET の暫定統治下にあり、政治的、社会的、経済的状況は刻々変化している。このような環境下で実施する支援活動は柔軟性と機動性が重要且つ不可欠と考えられる。そのために当面は協力隊や日系社会ボランティア等の経験者を派遣し、彼らの独自性と創造性を尊重して、これまでの個々の経験を活かした活動を期待するという面から緊急支援の新しい試みとして協力隊の事業幅を広げることになる。

現在、東チモールで活動する NGO や JICA プロジェクトの調査団の中には協力隊の経験者が多い。協力隊をはじめとするボランティア事業の経験者に対し、東チモールのような緊急かつ独創的な活動が求められる現場で彼らの経験を活かせるようなスキームができれば、今回の東チモールの試みは大きな試金石になるのではないだろうか。

別添資料

受入希望調査表

別紙の受入希望調査表は先方からの正式な要請によるものではなく、調査団の調査結果に基に想定された職種やその活動についてまとめたものである。

受入希望調査一覧表

	勤務先	勤務場所	職種	調査結果内訳	備考
1	ファトマカ工業学校	バウカウ県ファトマカ	電子機器	○ 現場調査済み	現場調査済み
2	〃	〃	自動車整備	○ 〃	〃
3	ベマッセ村	バウカウ県ベマッセ郡	村落開発普及	○ 〃	現場未調査
4	〃	〃	農業土木	○ 〃	〃
5	〃	〃	農業機械	○ 〃	〃
6	〃	〃	家畜飼育	○ 詳細は要調査	〃
7	〃	〃	獣医師	○ 〃	〃
8	〃	〃	公衆衛生	○ 〃	〃
9	〃	〃	建築施工	○ 〃	現場調査済み
10	〃	〃	青少年活動	○ 〃	〃
11	〃	〃	稲作	○ 〃	現場未調査
12	〃	〃	理数科教師	○ 〃	〃
13	ベニラレ家政学校	バウカウ県ベニラレ郡	家政	○ 現場調査済み	〃
14	〃	〃	婦人子供服	○ 〃	〃
15	フィロロ農業学校	レウテン県フィロロ	園芸作物	△ 〃	現場調査済み
16	〃	〃	獣医師	△ 〃	現場未調査
17	ベコラ公立工業学校	ディリ県ディリ市	電気機器	△ 〃	現場調査済み
18	UNTAET農業局	ディリ県ディリ市	測量	△ 詳細は要調査	〃

○：調査の結果、協力隊員に適していると考えられる配属先

△：今後の配属先として考慮したい

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- - -)				
国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 電子機器 (職種コード 330)	● 新規 ○ 交替	1 人	年 次 <input type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Electronic Instruments	代目		
配 属 先 概 要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)			
	2) 勤務先名 (日本語) ファトマカ工業学校 (現地公用語) Fatomaca Techniccal School			
	3) 勤務先住所 主要都市 (バウカウ市) から 10 Km バウカウ県 バウカウ郡 交通手段 (車) で 0.4 時間			
	4) 事業内容及び予算 1967年、農業学校として設立されたが、1977年にインドネシア政府の要望で工業学校として再スタートした。電気、電子、機械、木工の4コースがあり、3年間のコースで約200名が学んでいる。正規コースの他に自動車整備のワークショップがあり、自動車やトラクターの整備実習を行っている。			
要 請 概 要	1) 要請理由 (目的) 電子機器の分野は日進月歩の技術発展を続けており、本校としても新しい技術の導入が不可欠となっている。機材は旧態依然のものを使用しており、教師の知識や技術も基礎的なものに限られている。国造りのために新たな知識や技術を導入することが不可欠である。			
	2) 隊員の地位 (日本語) 講師 (現地公用語) Instructor			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 講義と実習を担当する。ただし、チモール人講師がカウンターパートとしているので、彼らとともに指導内容や方法を協議しながら分担して授業を担当する。レベルは日本の工業高校から高専程度である。学生への授業を行うだけでなく、同僚教師に対して技術指導が期待されている。同校は小・中学校も併設しており、放課後や休日を利用して青少年活動を行うとなお良い。パソコンの操作ができれば望ましい。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等 (写真添付のこと)			
5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢) 本校の卒業生でインドネシアの大学を卒業した講師が多い。年齢は20代から30代。		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 学生の年齢は15歳から19歳くらい		
		7) 訓練すべき言語 (インドネシアまたは英) 語		
8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置)				
条件	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
生活	生活環境：気候 (暑い) 乾期 6月～9月 雨期 11月～4月 ・気温 (18~33℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)			

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- - -)

国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 自動車整備 (職種コード 381)	● 新規	1 人	年 次 <input type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Automobile Maintenance	○ 交替 代目		

配 属 先 概 要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)
	2) 勤務先名 (日本語) ファトマカ工業学校 (現地公用語) Fatomaca Technical School
	3) 勤務先住所 主要都市 (バウカウ市) から 10 Km バウカウ県 バウカウ郡 交通手段 (車) で 0.4 時間
	4) 事業内容及び予算 1967年、農業学校として設立されたが、1977年にインドネシア政府の要望で工業学校として再スタートした。電気、電子、機械、木工の4コースがあり、3年間のコースで約200名が学んでいる。正規コースの他に自動車整備のワークショップがあり、自動車やトラクターの整備実習を行っている。

要 請 概 要	1) 要請理由 (目的) 自動車整備は正式な教科にはなっていないが、機械科や電気科のカリキュラムの中に自動車やトラクターの整備・修理が含まれている。自動車整備の技術と知識を持った人材の需要はこれから急速に高まると予想される。日本製の自動車が多く使われており、国造りの基盤を支える役割として技術者育成は急務である。
	2) 隊員の地位 (日本語) 実習講師 (現地公用語) Instructor
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 実習を主に担当することになる。チモール人の講師がカウンターパートとしているので、この講師とともに指導内容や方法を協議しながら分担して授業を担当する。レベルは日本の工業高校から専門学校程度である。学生への授業を実施するほか、カウンターパートへの技術指導も期待されている。学校での指導以外にも学校周辺やバウカウ市において、必要に応じて地域住民の保持する農業機械や自動車の整備・修理を手伝うことも可能である。
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等 (写真添付のこと)
5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢) 40歳代から50歳代	6) 指導対象者の技術レベル、年齢 学生は15歳から19歳程度
7) 訓練すべき言語 (インドネシアまたは英) 語	
8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置)	

条件	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)
----	--------------------------------

生活	生活環境：気候 (暑い) 乾期 6月～9月 雨期 11月～4月 ・気温 (18~33℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)
----	--

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- - -)				
国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 村落開発普及員 (職種コード 153) (現地公用語) Rural Development	○新規 ○交替 代目	1 人	年次 <input type="checkbox"/> 絶対
配 属 先 概 要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)			
	2) 勤務先名 (日本語) (現地公用語)			
	3) 勤務先住所 バウカウ県 ベマッセ郡 主要都市 (バウカウ市) から 20 Km 交通手段 (車) で 0.5 時間			
	4) 事業内容及び予算 UNTAETは各県に地方組織を持ち、DA(District Administrator:県知事に相当する)の指揮の下、種々の行政を行っている。県の下に郡があるが、郡にもField Officerが任命されておりいくつかのプロジェクトを実施している。			
要 請 概 要	1) 要請理由 (目的) 国造りの基本は食料の自給率を高めることである。そのために農村の復興は最も急務であり、複数の異職種の隊員を同じ村落に配置して協力活動を実施する方が効率的・効果的である。複数の隊員のリーダー役として村落開発普及員が要請された。			
	2) 隊員の地位 (日本語) (現地公用語)			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 村落復興はバウカウ県の西側に位置する3つの郡 (Sub-district) を対象としている。当初はBemasse郡の Bemasse村を対象として村落復興を行う。隊員はグループのリーダーとして、農業の復興業務 (灌漑施設の改善、農業機械の整備・修理、稲作の改善、害虫の駆除、家畜飼育等) を中心とするが、その他にも公衆衛生、栄養改善、公共施設の改築・修理等を複数の隊員と協力しながら実施する。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等 (写真添付のこと)			
条 件	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢)		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 農民	
	7) 訓練すべき言語 (インドネシア・英) 語			
生 活	8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置)			
	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
生活環境：気候 (暑い) 乾期 6 月～ 9 月 雨期 11 月～ 4 月 ・気温 (18-33 ℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)				

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- - -)				
国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 農業土木 (職種コード 120)	○新規 ○交替	1人	年次 <input type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Agricultural Civil Engineering	代目		
配属先概要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)			
	2) 勤務先名 (日本語) (現地公用語)			
	3) 勤務先住所 バウカウ県 ベマッセ郡 主要都市 (バウカウ市) から 20 Km 交通手段 (車) で 0.5 時間			
	4) 事業内容及び予算 UNTAETは各県に地方組織を持ち、DA(District Administrator:県知事に相当する)の指揮の下、種々の行政を行っている。県の下に郡があるが、郡にもField Officerが任命されておりいくつかのプロジェクトを実施している。			
要請概要	1) 要請理由 (目的) 水田を維持し収穫を上げるためには灌漑施設の維持・管理は重要な仕事である。現況は小規模な灌漑施設の維持・管理が十分できておらず、そのため田植え時期に必要な水が得られない状況が多々見られる。灌漑施設の維持管理と必要に応じて新たな灌漑施設の設計・施工のため要請された。			
	2) 隊員の地位 (日本語) (現地公用語)			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 農村では隣組のように助け合いの組織が残っているが、灌漑施設の維持・管理への取り組みは十分ではない。灌漑施設を改善することによって、米作の増産あるいは乾季の作付け対応も可能となる。隊員は村落ごとに灌漑施設を調査し、農民と一緒に補修や維持管理に当たる。今回の派遣は農民の意見を十分理解し、短期間に実行することが期待される。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等 (写真添付のこと)			
条件	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢)		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 農民	
			7) 訓練すべき言語 (インドネシア) 語	
	8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置)			
生活	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
	生活環境：気候 (暑い) 乾期 6月～9月 雨期 11月～4月 ・気温 (18~33℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)			

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- - -)				
国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 農業機械 (職種コード 125)	○新規 ○交替	1人	年次 <input type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Agricultural Machinery	代目		
配属先概要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)			
	2) 勤務先名 (日本語) (現地公用語)			
	3) 勤務先住所 バウカウ県 ベマッセ郡 主要都市 (バウカウ市) から 20 Km 交通手段 (車) で 0.5 時間			
	4) 事業内容及び予算 UNTAETは各県に地方組織を持ち、DA(District Administrator:県知事に相当する)の指揮の下、種々の行政を行っている。県の下に郡があるが、郡にもField Officerが任命されておりいくつかのプロジェクトを実施している。			
要請概要	1) 要請理由 (目的) 食料自給率の向上には営農の機械化は欠かせない。日本を含め海外からの援助で200台以上の農機が6県に配布され、バウカウ県にも15台配布される予定である。これらの新しい農業機械を含め、修理や操作指導をできるチモール人が不足していることから隊員が必要とされている。			
	2) 隊員の地位 (日本語) (現地公用語)			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 村人が所有する農機具 (トラクターおよび耕耘機) の整備や修理が主な業務。また、海外からの援助で入る予定の農機具の操作指導や整備を行う。これらのカウンターパートに技術指導することも期待されている。相手側との協議で、可能であれば、ファトマカ工業学校やラウテン県フィロロにある農業学校でトラクターや耕耘機の修理指導も効果的な協力となろう。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等 (写真添付のこと)			
	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢) UNTAETから農業技師1名、メカニック1名、オペレーター1名、農業改良普及員2名が配置予定		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 農民	
		7) 訓練すべき言語 (インドネシア) 語		
8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置)				
条件	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
生活	生活環境：気候 (暑い) 乾期 5月～9月 雨期 11月～4月 ・気温 (18~33℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)			

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- - -)				
国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 家畜飼育 (職種コード 141)	○新規 ○交替	1人	年次 <input type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Animal Husbandry	代目		
配 属 先 概 要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)			
	2) 勤務先名 (日本語) (現地公用語)			
	3) 勤務先住所 バウカウ県 ベマッセ郡		主要都市 (バウカウ市) から 20 Km 交通手段 (車) で 0.5 時間	
	4) 事業内容及び予算 UNTAETは各県に地方組織を持ち、DA(District Administrator:県知事に相当する)の指揮の下、種々の行政を行っている。県の下に郡があるが、郡にもField Officerが任命されておりいくつかのプロジェクトを実施している。			
要 請 概 要	1) 要請理由(目的) 村落には豚や鶏が放し飼いをされている。このような放し飼いのやりかたに改善を加えれば、村人の栄養改善に寄与し、あるいは余剰の卵や肉を販売できれば現金収入源にもつながる。村落の家畜飼育方法の改善のために要請された。			
	2) 隊員の地位 (日本語) (現地公用語)			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 個々の農家で放し飼いにされている家畜(豚、鶏、羊等)を、農民の栄養改善のためや現金収入のために効率の高い飼育方法を見だし、それを村人とともに実行していく。実施に当たっては村人の意見を尊重して、十分協議しながら行うことが大切である。 家畜の糞尿を肥料として活用する方策も具体化できれば農業振興に貢献できるであろう。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等(写真添付のこと)			
	5) カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年齢)	6) 指導対象者の技術レベル、年齢 農民		
		7) 訓練すべき言語 (インドネシア) 語		
	8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置)			
	条件	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)		
生活	生活環境：気候 (暑い) 乾期 5月～9月 雨期 11月～4月・気温 (18~33℃位) 任地の人口 (人)・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)			

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- - -)				
国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 獣医師 (職種コード 145)	○新規 ○交替	1人	年次 <input type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Veterinary Medicine	代目		
配属先概要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)			
	2) 勤務先名 (日本語) (現地公用語)			
	3) 勤務先住所 バウカウ県 ベマッセ郡 主要都市 (バウカウ市) から 20 Km 交通手段 (車) で 0.5 時間			
	4) 事業内容及び予算 UNTAETは各県に地方組織を持ち、DA(District Administrator:県知事に相当する)の指揮の下、種々の行政を行っている。県の下に郡があるが、郡にもField Officerが任命されておりいくつかのプロジェクトを実施している。			
要請概要	1) 要請理由 (目的) 農村には用途に応じて各種の家畜 (水牛、牛、馬、山羊、豚、鶏等) が飼われている。チモール人の獣医師は少なく、病気や病気予防のために獣医師が強く求められている。また、ネズミの繁殖により農作物 (主に稲) の害が多く報告されているため、ネズミ駆除の対策も必要とされている。			
	2) 隊員の地位 (日本語) (現地公用語)			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 個々の農家が飼っている家畜の病気予防と病気になった家畜の治療が主な仕事である。また、ネズミによる農産物の被害も増大していることからネズミ駆除の対策も期待されている。 さらに、ラウテン県フィロロにある農業学校との連携も可能であれば大きな協力効果を得られるだろう。赴任当初は活動に必要な設備を整える必要がある。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等 (写真添付のこと)			
条件	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢)		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 農民	
			7) 訓練すべき言語 (インドネシア) 語	
8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置)				
条件	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
生活	生活環境：気候 (暑い) 乾期 5月～9月 雨期 11月～4月 ・気温 (18~33℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)			

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- -)				
国名	職 種 名	区 分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 公衆衛生 (職種コード 550) (現地公用語) Public Health	<input type="radio"/> 新 規 <input type="radio"/> 交 替 代目	1 人	年 次 <input type="checkbox"/> 絶対
配 属 先 概 要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)			
	2) 勤務先名 (日本語) (現地公用語)			
	3) 勤務先住所 主要都市 (バウカウ市) から 20 Km バウカウ県 ベマッセ郡 交通手段 (車) で 0.5 時間			
	4) 事業内容及び予算 UNTAETは各県に地方組織を持ち、DA(District Administrator:県知事に相当する)の指揮の元、種々の行政を行っている。県の下に郡があるが、郡にもField Officerが任命されておりいくつかのプロジェクトを実施している。			
要 請 概 要	1) 要請理由 (目的) チモールにおける医療施設は主な都市以外はまだ整っていない。地方の農村においては郡に設置されてあるヘルスセンターをとおして医療行為を実施している状況である。このような現状でプライマリヘルスケアは特に重要であり、栄養改善を含めた日常の健康指導が求められている。			
	2) 隊員の地位 (日本語) (現地公用語)			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 ヘルスセンターをベースにして活動する。また、郡の中にいくつかの村があり、それらの村にはヘルスポストがあるので、これを活用して村人の健康基礎調査、栄養改善、病気予防等の活動を行う。東チモールには医師は極端に不足しているが看護婦は足りている。職に就けない看護資格のあるカウンターパートを育成し、一緒に活動しながら技術指導していくことも求められる。グループで派遣された他の隊員と協力してワークショップを開くなど工夫しながら効果を上げることが期待される。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等 (写真添付のこと)			
	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢)		6) 指導対象者の技術レベル、年齢	
	7) 訓練すべき言語 (インドネシア) 語			
	8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置)			
	条件 学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
生活 生活環境：気候 (暑い) 乾期 6 月～ 9 月 雨期 11 月～ 4 月 ・気温 (18~33 ℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)				

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- - -)				
国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 建築施工 (職種コード 444)	○新規 ○交替 代目	1人	年次 <input type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Building Construction			
配 属 先 概 要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)			
	2) 勤務先名 (日本語) (現地公用語)			
	3) 勤務先住所 バウカウ県 ベマッセ郡			
	主要都市 (バウカウ市) から 20 Km 交通手段 (車) で 0.5 時間			
要 請 概 要	4) 事業内容及び予算 UNTAETは各県に地方組織を持ち、DA(District Administrator:県知事に相当する)の指揮の下、種々の行政を行っている。県の下に郡があるが、郡にもField Officerが任命されておりいくつかのプロジェクトを実施している。			
	1) 要請理由(目的) 1999年9月以降の争乱によって、都市部だけでなく村落においても多くの民家や公共の建物が焼かれ破壊されてしまった。これらの建物の修復は人々の住居を確保するだけでなく、学校・病院・公民館といった社会基盤を整えることが急務となっている。			
	2) 隊員の地位 (日本語) (現地公用語)			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 破壊された公共施設の修復(多くの場合、建物の壁のみが残っている状態)が主な活動となる。修復工事の資機材は国連機関から支援され、NGOが輸送に当たっている。しかし、必要とする資機材がタイムリーに入手できるとは限らず資機材の手配から担当することになる。トタンと角材を使った屋根の修復や窓・ドアの作成、建物の内壁の修復等大工の仕事を大半を占める。 村人といっしょになって協力しながら活動できれば協力効果は倍増することになる。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等(写真添付のこと)			
条 件	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢)		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 農民	
			7) 訓練すべき言語 (インドネシア、英) 語	
	8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置)			
生 活	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
	生活環境：気候 (暑い) 乾期 6月～9月 雨期 11月～4月 ・気温 (18~33℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)			

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- - -)

国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 青少年活動 (職種コード 624)	○新規 ○交替	1人	年次 <input type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Youth Activities	代目		

配属先概要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)
	2) 勤務先名 (日本語) (現地公用語)
	3) 勤務先住所 バウカウ県 ベマッセ郡 主要都市 (バウカウ市) から 20 Km 交通手段 (車) で 0.5 時間
	4) 事業内容及び予算 UNTAETは各県に地方組織を持ち、DA(District Administrator:県知事に相当する)の指揮の元、種々の行政を行っている。県の下に郡があるが、郡にもField Officerが任命されておりいくつかのプロジェクトを実施している。

要請概要	1) 要請理由 (目的) 1999年9月以降の争乱以後、若年層への精神的苦痛は計り知れないほど大きいものと想像される。緊急支援を脱しつつある状況で、青少年を対象とした活動は社会環境の安定のためにも国造りのためにも重要な分野である。スポーツを柱にした青少年活動を活発させるために隊員が要請された。
	2) 隊員の地位 (日本語) (現地公用語)
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 東チモールではサッカーやバレーボールといったスポーツが盛んである。小学生の9割近くは復学していると聞いているが、授業以外の活動はなにもないのが現状である。スポーツを柱にした青少年活動を活発にすることで、共同で活動する楽しさやよそこび、ルールを尊重する大切さ等を学ぶことができる。子供たちとの活動を好きであることと、サッカーやバレーボールバスケットボール等のスポーツのルールを理解し、自ら競技できること。また、スポーツ大会等を企画する実行力も求められる。
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等 (写真添付のこと)

5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢)	6) 指導対象者の技術レベル、年齢 村人
	7) 訓練すべき言語 (インドネシア、英) 語
8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置)	

条件	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)
生活	生活環境：気候 (暑い) 乾期 6月～9月 雨期 11月～4月 ・気温 (18~33℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- - -)				
国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 稲作 (職種コード 102)	○新規 ○交替	1人	年次 <input type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Rice Culture	代目		
配属先概要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)			
	2) 勤務先名 (日本語) (現地公用語)			
	3) 勤務先住所 バウカウ県 ベマッセ郡 主要都市 (バウカウ市) から 20 Km 交通手段 (車) で 0.5 時間			
	4) 事業内容及び予算 UNTAETは各県に地方組織を持ち、DA(District Administrator:県知事に相当する)の指揮の下、種々の行政を行っている。県の下に郡があるが、郡にもField Officerが任命されておりいくつかのプロジェクトを実施している。			
要請概要	1) 要請理由 (目的) 米は水田で作られており、長年の経験である程度技術は確立されているとの報告がある。しかし、従来の稲作方法を少し改良することで収穫量を向上させたり、保存状態を良くすることにより販売価格を上げることも可能となる。			
	2) 隊員の地位 (日本語) (現地公用語)			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 米作りの過程で、従来の稲作方法をわずかに改良することによって品質と収穫量を高めることが業務内容といえる。苗の栽培、田植えの方法、除草、稲刈り、脱穀、貯蔵とそれぞれの過程で改善の余地がある。肥料については、農家で飼っている家畜の糞尿を利用することも工夫次第では可能であろう。農民の組織であるKolonpok tani (隣組のような組織)を利用して講習会を開くなど普及活動にはいろいろな方法が考えられる。農民と一緒に活動する適応力が大切である。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等 (写真添付のこと)			
	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢)		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 農民	
		7) 訓練すべき言語 (インドネシア) 語		
8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置)				
条件	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
生活	生活環境：気候 (暑い) 乾期 6月～9月 雨期 11月～4月 ・気温 (18~33℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)			

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- - -)				
国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 理数科教師 (職種コード 692)	○新規 ○交替 代目	1人	年次 <input type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Science and Mathematics Education			
配属先概要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)			
	2) 勤務先名 (日本語) (現地公用語)			
	3) 勤務先住所 バウカウ県 ベマッセ郡 主要都市 (バウカウ市) から 20 Km 交通手段 (車) で 0.5時間			
	4) 事業内容及び予算 UNTAETは各県に地方組織を持ち、DA(District Administrator:県知事に相当する)の指揮の下、種々の行政を行っている。県の下に郡があるが、郡にもField Officerが任命されておりいくつかのプロジェクトを実施している。			
要請概要	1) 要請理由 (目的) 1999年9月の争乱以後学校教育は休止されていたが、2000年5月には小学校の約9割で授業を再開しているといわれている。しかし、教材はインドネシア時代の教科書しかなく、教師用にカリキュラムに合った教材が不足している。これらの教材の開発導入及び適切な指導方法の導入が必要となっている。			
	2) 隊員の地位 (日本語) (現地公用語)			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 理科や数学の授業で使う教材の開発が主な活動となる。例えば三角定規や分度器等は数学の授業では欠かせない物である。理科の授業ではいろいろな道具を使った方が理解度は高まる。このような器具や道具を現地の材料を用いて作成することが求められる。開発に当たっては現場の先生方の意見を十分採り入れること、また逐次UNTAETの教育部門とも連絡を取りながら活動を進めることが大切である。 資金や資材の調達といったことも業務に含まれることから、関係機関との交渉力も必要となる。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等 (写真添付のこと)			
	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢)		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 教師、子供	
		7) 訓練すべき言語 (インドネシア) 語		
8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置)				
条件	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
生活	生活環境：気候 (暑い) 乾期 6月～9月 雨期 11月～4月 ・気温 (18~33℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)			

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- -)				
国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 家政 (職種コード 640)	○新規 ○交替 代目	1 人	年次 <input type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Home Arts			
配属先概要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)			
	2) 勤務先名 (日本語) ベニラレ家政学校 (現地公用語) Venilale Technical School			
	3) 勤務先住所 主要都市 (バウカウ市) から 20 Km バウカウ県 ベニラレ郡 交通手段 (車) で 0.8 時間			
	4) 事業内容及び予算 1993年開校。Don Bosco教会が運営する学校の一つ。被服科、調理科の2つのコースがあり、3年制で各コースとも学年毎に1クラスずつ。学生の総数は約100名、教員数は10名(外国人ボランティア2名を含む)学生・教員とも一部を除き校内にある寮生活である。学校外での実習もカリキュラムに入っている。			
要請概要	1) 要請理由(目的) 調理科には専任講師はおらず、暫定的にシスターが担当している。また、実習の材料の入手が困難であったり、調理用のガスが手に入らず薪を使用したりするため、授業時間内に終わらないこともある。幾多の困難はあるが女性の地位向上のために隊員の要請が出された。			
	2) 隊員の地位 (日本語) 講師 (現地公用語) Instructor / Guru			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 調理科の専任講師がない現状であり、このコースの講義と実習を担当する。地元にある調理用材料を工夫しながら実習に使うことも求められる。また、地域住民を対象とした調理指導も可能であることから、活動方法を工夫することで協力の範囲を広げることもできる。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等(写真添付のこと) 薪用オープン2台、薪用大型かまど4台、ガスコンロ10台(ただしガスの入手は困難) 調理器具、			
5) カウンターパート(人数、学歴、経験、地位、年齢) 補助講師1名		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 16歳から18歳の学生		
		7) 訓練すべき言語 (インドネシア) 語		
8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置) ポルトガル人講師2名(ポルトガル語講師)				
条件	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
生活	生活環境：気候 (暑い) 乾期 6月～9月 雨期 11月～4月 ・気温 (18~33℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)			

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- - -)				
国名	職 種 名	区 分	受入希望人数	派遣希望時期
東子モール	(日本語) 婦人子供服 (職種コード 651)	○新規 ○交替	1 人	年 次 <input type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Dress Making	代目		
配 属 先 概 要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)			
	2) 勤務先名 (日本語) ベニラレ家政学校 (現地公用語)			
	3) 勤務先住所 主要都市 (バウカウ市) から 20 Km バウカウ県 ベニラレ郡 交通手段 (車) で 0.8 時間			
	4) 事業内容及び予算 1993年開校。Don Bosco教会が運営する学校の一つ。被服科、調理科の2つのコースがあり、3年制で各コースとも学年毎に1クラスずつ。学生の総数は約100名、教員数は10名（外国人ボランティア2名を含む）学生・教員とも一部を除き校内にある寮生活である。学校外での実習もカリキュラムに入っている。			
要 請 概 要	1) 要請理由 (目的) 被服科には3名の教師がいるがいずれも非常勤講師で当校の卒業生である。講師の技術レベルの向上と学生への授業を実施することが業務である。実習のための材料不足が問題となっている。当校での活動は女性の地位向上や雇用促進にもつながる。			
	2) 隊員の地位 (日本語) 講師 (現地公用語) Instructor / Guru			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 3名のカウンターパートと分担して被服科で主に実習を担当する。そのほか、カウンターパートへの技術指導や教材開発も期待される。材料の入手が困難な現状の中で、いかに工夫しながら実習を行うかが課題である。地域住民に対する実習プログラムの計画・実施も活動の一つとして求められている。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等 (写真添付のこと)			
条 件	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢) 当学校の卒業生で非常勤講師		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 16歳から18歳の学生	
	7) 訓練すべき言語 (インドネシア) 語			
	8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置) ポルトガル人のボランティア2名 (ポルトガル語の講師)			
生活	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
	生活環境：気候 (暑い) 乾期 6月～9月 雨期 11月～4月 ・気温 (18~33℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)			

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- - -)				
国名	職 種 名	区 分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 園芸作物 (職種コード 103)	○新 規 ○交 替 代目	1 人	年 次 <input type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Horticulture			
配 属 先 概 要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)			
	2) 勤務先名 (日本語) フィロロ農業学校 (現地公用語)			
	3) 勤務先住所 ラウテン県 フィロロ 主要都市 (ロスパロス) から 10 Km 交通手段 (車) で 0.4 時間			
	4) 事業内容及び予算 1948年に開校したが1975年に中断し1988年に再開し現在に至っている。中学卒業の3年課程で現在は畜産コースのみ。近いうちに園芸作物コースと水産コースの設置を計画している。学生数は131名(内女子25名)敷地内に農場・牧場があり多くの家畜を飼っている。農機具の修理場も備えている。			
要 請 概 要	1) 要請理由 (目的) 当農業学校に開設予定の園芸作物コースの講師としてチモール人の中から探すのは難しいため、協力隊員の要請が出された。			
	2) 隊員の地位 (日本語) (現地公用語)			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 園芸全般についての知識と経験が要求される。授業も受け持つことから語学力と教授法も必要となる。農業学校は小学校と中学校を併設しており、放課後や休日を使って子供たちと課外活動も期待される。園芸作物のコースを新設するために専門の教師を要請したい。隊員は教室での講義と試験農場での実習を担当することになる。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等 (写真添付のこと)			
5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢)		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 学生		
		7) 訓練すべき言語 (インドネシア) 語		
8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置)				
条 件	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
生 活	生活環境：気候 (暑い) 乾期 6月～9月 雨期 11月～4月 ・気温 (13~33 ℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)			

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- -)				
国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 獣医師 (職種コード 145)	○新規 ○交替	1人	年次 <input type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Veterinary Medicine	代目		
配 属 先 概 要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)			
	2) 勤務先名 (日本語) フィロロ農業学校 (現地公用語)			
	3) 勤務先住所 ラウテン県 フィロロ 主要都市 (ロスパロス) から 10 Km 交通手段 (車) で 0.4時間			
	4) 事業内容及び予算 1948年に開校したが1975年に中断し1988年に再開し現在に至っている。中学卒業の3年課程で現在は畜産コースのみ。近いうちに園芸コースと水産コースの設置を計画している。学生数は131名(内女子25名)敷地内に農場・牧場があり多くの家畜を飼っている。農機具の修理場も備えている。			
要 請 概 要	1) 要請理由(目的) 畜産コースのなかで、獣医学に関する専門教師がいないため、協力隊員の要請が出された。			
	2) 隊員の地位 (日本語) (現地公用語)			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 農場には鶏500羽、豚65匹、牛84頭、山羊28頭、ウサギ50匹がかわれている。農場の敷地は200haある。隊員は獣医にかんする部門の授業を実施すると共に学校に飼われている家畜をつかって実習も行う。また、地域の農家を訪問して、家畜の病気の診断と治療にあたる。農民との良好な関係を作りながら活動できる適応性が重要となる。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等(写真添付のこと)			
	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢)	6) 指導対象者の技術レベル、年齢 学生、農民		
		7) 訓練すべき言語 (インドネシア) 語		
8) 外国の援助状況(含む専門家、ボランティアの配置)				
条件	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
生活	生活環境：気候 (暑い) 乾期 6月～9月 雨期 11月～4月 ・気温 (18-33℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)			

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- - -)				
国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 電気機器 (職種コード 320)	○新規 ○交替 代目	1人	年次 <input type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Electric Instruments			
配属先概要	1) 配属省庁名 (日本語) (現地公用語)			
	2) 勤務先名 (日本語) ベコラ公立工業学校 (現地公用語)			
	3) 勤務先住所 主要都市 (ディリ市内) から Km ディリ市 交通手段 () で 時間			
	4) 事業内容及び予算 1999年9月以降の争乱により校舎も校舎内の設備も破壊されたり盗難にあった。2000年10月の授業の再開を目指して準備を進めている。準備のためにオーストラリアの北部地域大学(Nothern Teriritory University)から講師が派遣される予定。電気・電子・自動車整備・溶接・建築のコースがある。			
要請概要	1) 要請理由 (目的) インドネシア時代は80名いた教師が現在は7名のみになった。教師の大半はインドネシア人であった。工業学校の再開に向け設備の整備と教師の確保が急務となっている。			
	2) 隊員の地位 (日本語) (現地公用語)			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 電気機器のコースで講師として学生にたいして講義と実習を担当する。実習のために必要な機器が不足しており、あるものをいかに工夫して授業に使うかが試される。また、チモール人の同僚への技術指導も期待されている。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等 (写真添付のこと)			
条件	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢)		6) 指導対象者の技術レベル、年齢 学生	
	7) 訓練すべき言語 (インドネシア) 語			
	8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置)			
条件	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
生活	生活環境：気候 (暑い) 乾期 6月～9月 雨期 11月～4月 ・気温 (18~33℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)			

青年海外協力隊派遣受入希望調査表

事務局記入欄

記入日：平成12年5月29日

調査者名：要請背景調査団

要請番号 (- - -)				
国名	職種名	区分	受入希望人数	派遣希望時期
東チモール	(日本語) 測量 (職種コード 420)	○新規 ○交替	1人	年次 <input type="checkbox"/> 絶対
	(現地公用語) Surveying	代目		
配 属 先 概 要	1) 配属省庁名 (日本語) 国連暫定統治機構行政部門 (現地公用語) Governance and Public Administration (GPA)			
	2) 勤務先名 (日本語) 農業局 (現地公用語) Agricultural Affairs Department			
	3) 勤務先住所 主要都市 (ディリ市内) から Km ディリ市 交通手段 () で 時間			
	4) 事業内容及び予算 インドネシア時代にチモール島の海岸線沿いに水準点およびGPS基準点を設置し1:25,000の国土基本図を作成した。しかし、紛争によって測量成果は焼失した。東チモールの復興のための社会基盤の整備において測量成果は不可欠であり、測量データの再現とアップデート化が急務とされている。			
要 請 概 要	1) 要請理由 (目的) 現在の東チモールには地図作製に関する機関がないため、暫定的にUNTAETの農業部門が担当しているが、測量・地形図の専門家はいない。将来東チモール政府内に地図作製機関 (測量局・地図局) が必要なのは自明であり、今からこれらの業務を担当できる人材を育成しておく必要がある。			
	2) 隊員の地位 (日本語) (現地公用語)			
	3) 期待される具体的業務内容及び求められる技術の範囲 我が国は2000年1月に「東チモール緊急復興地理情報データベース作成調査 (首都ディリ市のみ)」の内容についてUNTAETとの合意に至り、同年8月を期限として縮尺1:2,000地形図と地理データベースを作成中である。しかし、ディリ市以外の主要都市の測量データについては未だ手つかずの状態であり、ディリ市の地理情報データベースについても今後復興する社会基盤の整備状況を可能な限りリアルタイムに更新する必要がある。水準測量および基準点測量 (GPS測量) に関して精通するとともに、地理情報データベースの更新に必要なGISソフト経験(Arc-Info・Arc-Vies)を持つ隊員が望ましい。			
	4) 隊員が利用、又は取り扱う機材の機種名・型式、設備等 (写真添付のこと)			
	5) カウンターパート (人数、学歴、経験、地位、年齢)		6) 指導対象者の技術レベル、年齢	
		7) 訓練すべき言語 (インドネシア・英) 語		
8) 外国の援助状況 (含む専門家、ボランティアの配置)				
条件	学歴、経験、資格、性別 (受入に不可欠な条件のみ記入)			
生活	生活環境：気候 (暑い) 乾期 6月～9月 雨期 11月～4月 ・気温 (18-33℃位) 任地の人口 (人) ・日用品：価格 (<input type="checkbox"/> 高い <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 安い)、品質 (<input type="checkbox"/> 良い <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 悪い) 物資 (<input type="checkbox"/> 豊富 <input type="checkbox"/> 普通 <input checked="" type="checkbox"/> 欠乏)			



United Nations Transitional Administration In East Timor
“UNTAET”

Nasoes Unidas Nia Administrasoun Tranzisional iha Timor Lorosa'e

BAUCAU AND ITS ADMINISTRATION

Office of the District Administrator
April 2000

A Brief Profile of Baucau

- 1. Land Area and Topography:** Ranges from dry coastal plain and limestone plateau (e.g. sub-districts of Vemasse and Laga) to the interior mountainous areas, which are more fertile (e.g. parts of Laga, Quelicai, Baguia, Venilale and Baucau sub-districts).
- 2. Population:** Over 100,000
- 3. Climate:** Hot and humid with most rainfall between the month of November and April
- 4. Languages:** Makkasae and Waim'ua, Tetun, Portuguese, Indonesia Bahasa.
- 5. Nature of Local Economy:** Limited economic, as well as resource base. Mainly subsistence economy
- 6. Means of Livelihoods:** Farming (like, maize and rice), Fishing, Salt-making, Small Trading, Weaving, etc.
- 7. Social Safety Net:** Largely the extended family system.
- 8. Political Orientations:** Appear to be organized, sensitive and active.
- 9. Magnitude of Destruction:** Although Baucau is not at the top of the list of districts in terms of number of houses destroyed, the loss in financial term is yet to be assessed. In Baucau, infrastructures/equipment were looted/destroyed/damaged (in part or in full). The same holds good in case of villagers' productive assets (like, tractor, fishing boat and buffalo). An assessment of financial loss (district-wise) might reveal a new set of information in respect of the magnitude of destruction per district. Such an assessment, in all critical sectors (district-wise), is vital for decisions regarding the allocation of development resources per district.
- 10. Developmental Challenges (UNTAET-Baucau Perspectives):** Language, Restoration of basic services/facilities, Capacity and capability development, Institution-building, Work culture, Sustainable economic activities, Income, as well as Revenue generation.
- 11. Opportunities (UNTAET-Baucau Perspectives):** Local leadership (CNRT, Church, etc.), donor support, political orientations (if harnessed productively), international expertise, best practices.

UNTAET DISTRICT ADMINISTRATION – BAUCAU

1. Our Mission

The achievement of UNTAET mandate productively and with an optimal satisfaction of all concerned.

2. Our Objectives

- To maintain peace, law and order in the district and to protect life and property of the people;
- To provide humanitarian assistance (= as appropriate) and to ensure emergency response;
- To build, operate and transfer (BOT) administrative machinery and capacity in the areas of good governance and public administration;
- To promote human development, economic growth, justice and equity; and
- To create enabling environment for the eventual transfer of power from UNTAET to the people and leadership of the district.

3. Our Programmes

We have adopted the programme approach in order to translate the above objectives into the following core programmes:

- Peace, Security and Emergency Response
- Human Development and Environment
- Good Governance and Economic Growth

4. Organization and Staffing

The organization of the district administration (Baucau) is primarily line and staff. For example, line functionaries are district field officers (DFOs), in-charge of sub-districts and staff functionaries are focal points responsible for sectors like, agriculture, health and education. The organization has functional relationships with UN Peace-keeping Force and others (the organization chart is attached for ready reference).

At present, the Baucau work team comprises 87 international staff (including 70 CIVPOLs) and 65 East Timorese.

5. Key Strategic Goals of Our Half-Yearly Work Plan (February – July 2000)

- Sub-district Offices fully operationalized (due to resource constraints, we are currently operating at about 30% capacity). A full complement of staff (CIVPOL, GPA, etc.) ensured.

- At least 3 Quick Impact Projects per sub-district implemented.
- At least 80% USAID-funded TEP activities are implemented.
- Community Empowerment Projects initiated.
- Administration of justice improved further (= particularly through the operationalization of judiciary)
- Local ownership of development activities and synergy between the district administration and development partners for productivity and satisfaction enhanced.
- Water supply system improved.
- Power supply in the remaining two sub-districts (Vemasse and Quilecai) restored. Supply situation throughout Baucau improved.

6. Our Modus Operandi for Programme Implementation

- Direct interventions (like, humanitarian aid and maintenance of law and order)
- Capacity and capability building/development
- Institution building/development
- Optimization of resource utilization.
- Cultivation of partnership
- Community mobilization
- Respect for people and their culture

7. Our Current Partners in Development

CNRT (Baucau), Church (particularly under the leadership of Bishop Nascimento), NGOs (like, CRS, MSF and ICRC), Village Chiefs, Community members, UN Organizations (like, WFP, UNHCR and UNICEF), Women Groups, Student Groups and others.

8. District Performance (= so far)

- Humanitarian/Emergency assistance provided to the people of the district include:
 - + **Food:** 520 metric tons (Phase I) and 415 metric tons (Phase II – ongoing)
 - + **Rice Seed:** 61 metric tons (including swapping of rice for paddy seed)
 - + **School-in-box** (exercise books, pens, pencils, erasers, etc.); **Teacher Kit** (white and colour chalks, rulers, registration and accounting books; **Recreational Kit** (balls, skipping ropes, etc.): distributed to all 87 primary schools and to a few secondary schools)
 - + **Primary Shelter Materials**
 - + **Non-food items (like, mosquito nets, blankets and medicine)**
 - + **Agricultural tools**
 - + **Vulnerable Group Feeding:** Programme to provide food rations to orphanages, disabled persons, widows, pregnant women and lactating mothers has started.
 - + **School Feeding:** Programme to provide food to boarding schools has commenced.
- Power supply has been restored on a regular basis for 24-hours in Baucau town, Baucau sub-district and Laga sub-district. Two other sub-districts (Baguia and

Venilale) get electric supply for six hours every night. Negotiated with a donor to provide funds for a generator and re-construction of powerhouse in Quelicai. Currently work is ongoing for the restoration of power in the sub-district by the end of this month. Work on the restoration of power to the remaining sub-district (Vemasse) will start this month and it is expected that electric supply will be restored within a month.

- Reliability of statistics improved through UNTAET taking a lead in coordinating figures for population, vulnerable groups (for example, widows, orphans, disabled, etc.), teachers in secondary and primary schools, etc.
- Piped water supply was restored in Baucau town. Work on water supply systems is continuing and is expected to get a boost from the two expatriate technical staff who have recently joined the Baucau Water Authority.
- Many Transitional Employment Projects, as well as Quick Impact Projects are operational, employing or will employ soon about 1000 East Timorese workers.
- Roads repair and maintenance work is being undertaken in the district supported by the USAID, JICA and UNTAET (through Timor Asphalt Resources – a Timorese and Australian joint venture construction company). The communities are implementing the projects with the support of the district administration.
- UNTAET has commenced payment of stipends for East Timorese civil servants (in Baucau) since February 2000. More than 600 East Timorese are in the stipend payroll for Baucau and the number will further increase in April 2000 with the inclusion of primary school teachers.
- The District Administration has been brought nearer to grassroots communities through the establishment and partial operationalization of sub-district offices. The first CIVPOL sub-district headquarters has opened in the Laga-sub-district and 15 CIVPOLs serving the three –sub-districts of Laga, Quelicai and Baguia have been posted there.
- Consultative participatory processes for development related decision-making have been instituted. For example, the Reconstruction and Development Committee and the several sub-committees under it to deal with substantive matters like, law and order, education, etc. Sensitization for Baucau development dialogue project is underway. The purpose is to obtain peoples' vision of development through popular consultations prior to the two-day dialogue session planned later in the month for the Baucau Declaration on Development 2000-3.
- Law and order situations have improved through several conflict resolution meetings and the efforts of the CIVPOL in arresting suspects and transferring them to the detention center in Dili for the due process of law.

- The CIVPOLs Regional Headquarters has moved to its permanent site in the new town.
- People's confidence in UNTAET is being promoted through an increased transaction among UNTAET-Baucau, local leadership and the people of the district.

9. How is Baucau doing now?

The people are gradually coming back to their normal routine. At least four restaurants and several grocery shops have been opened in Baucau so far. Markets are expanding with new stocks coming into the country. Rupiah is widely in use. Schools are open but not adequately equipped. Farmers are planting their fields. Some youths are taking part in judo training organized by a few local people. Unemployment, loss of income and a falling exchange entitlement (due to inflation) are hurting the coping capacities of the people. Thanks to WFP food, items from various UN agencies and NGOs, the extended family system of East Timor and the subsistence nature of local economy – a buffer so far! UNTAET-supported income – generation activities are gaining momentum and they are progressively strengthening the local economy. Political activities have started picking-up with political groups trying to re-organize party and leadership. Internal strife for power is rife. The gap between the demand for services and the actual service provided is wide. But one good thing – East Timor is now an independent territory. The people have got now something more important to work for. They should work together for the stability, progress and prosperity of the newly born EAST TIMOR. UNTAET is here to help and support them.